

# 和光市デジタルミュージアム紀要

## 第9号



### 目次

#### <資料紹介>

吹上遺跡確認調査出土土器について 鈴木一郎 p1

富士塚調査で気付いた盃状穴 野澤均 p9

和光市内富士塚の石造物について 大内一雄・田中由美 p15

#### <実績報告>

令和4（2022）年度 和光市埋蔵文化財調査年報 江口やよい p35



2024.3

和光市教育委員会



## 序文

和光市では郷土にゆかりのある貴重な文化財などを後世に伝え活用するために、これまで多くの方々から資料をご提供いただき、文化財保存庫に収蔵してまいりました。これらの収蔵物等を広く市民の皆様方にご紹介し、本市の歴史や文化をご理解いただくため、平成24年4月1日からWeb上で「和光市デジタルミュージアム『れきたま』」の配信を開始しました。『れきたま』の充実をさらに図るべく、和光市文化財保護行政の1年間の成果を取りまとめた「和光市デジタルミュージアム紀要」を創刊し、併せてWeb上での公開をしてから今号で第9号となりました。

今回は、資料紹介として和光市教育委員会が実施した富士塚の調査に伴い得られた知見を資料紹介として紹介したほか、令和4年度に市内で行った埋蔵文化財に関する調査を掲載いたしました。

有形・無形文化財、民俗的文化財など先人の残した文化財は、本市の貴重な財産であり、我々はそれを後世に残していく責任があります。また、このような文化財に関する研究の蓄積は、当市の歴史や文化財を学び理解していただく上で有効なものであると考えています。

最後になりましたが、本紀要の刊行にあたりまして日ごろからご指導いただいております埼玉県教育局市町村支援部文化資源課、和光市文化財保護委員会委員各位、また、公私ともご多用の中、様々なご教示・ご高配を賜りました関係者の皆様に心より厚く御礼申し上げまして、あいさついたします。

令和6年3月  
和光市教育委員会  
教育長 石川 毅



# 吹上遺跡確認調査出土土器について

鈴木 一郎

## 1. はじめに

令和4年12月20日（火）吹上遺跡（和光市白子3丁目4385-1）において、駐車場建設に伴う確認調査を行った。確認調査地点は、吹上遺跡の道路に沿って区分しているB地区に当たり第4次調査区の東側で、第3次調査区の南側である（第1図）。この調査では、遺構・遺物が確認され、その際出土遺物を取り上げ、遺失物届を行った。今回はその資料について報告を行う。

## 2. 確認調査

開発予定地を、重機によりトレンチを10本掘削した（第2図）。各トレンチは表土・耕作土などを掘削し、ローム層上面において遺構確認を行った。ほとんどのトレンチは地表からの深さ60～140cmでハードローム層を確認し、過去の耕作や天地返しにより遺構・遺物の存在する地層が壊されていた。その中で、1か所の6トレンチにおいて地表から80cmで遺構が確認され、人力でジョレンによるプラン確認を行っている最中に遺物が出土した。遺構は平面プランと覆土の色調、周辺調査状況、出土遺物の状況などから弥生時代後期の住居跡で平面形態は小判型と思われる。覆土の厚さは、ボーリングステッキにより30cmと推定される。開発予定は砂利敷駐車場であり、遺構と建設工事面との間に保護層を十分に保つことが確認されたため、事業主と保存に関する調整・協議を行った結果、発掘調査は行わず、盛土保存の措置をとることとなった。隣地との境界杭を測定の基準としてトレンチ位置、地表からの深さ、遺構範囲を測量した後、重機による埋め戻しを行い現地確認調査は終了した。出土遺物は2点であり、現地調査終了後和光市歴史資料室に持ち帰

り、水洗、注記を行った。遺物の注記は13・シ6トレ住20221220である。

## 3. 出土遺物

遺構から出土した遺物は2点とも土器である。

第4図1は、遺構確認のジョレン掛けで出土した。壺形土器の肩部破片である。表面はヘラミガキ、赤彩、裏面はナデ調査されている。胎土は白色粒子、小石、雲母を含む。色調は明赤褐色（2.5 Y R 5/6）である。

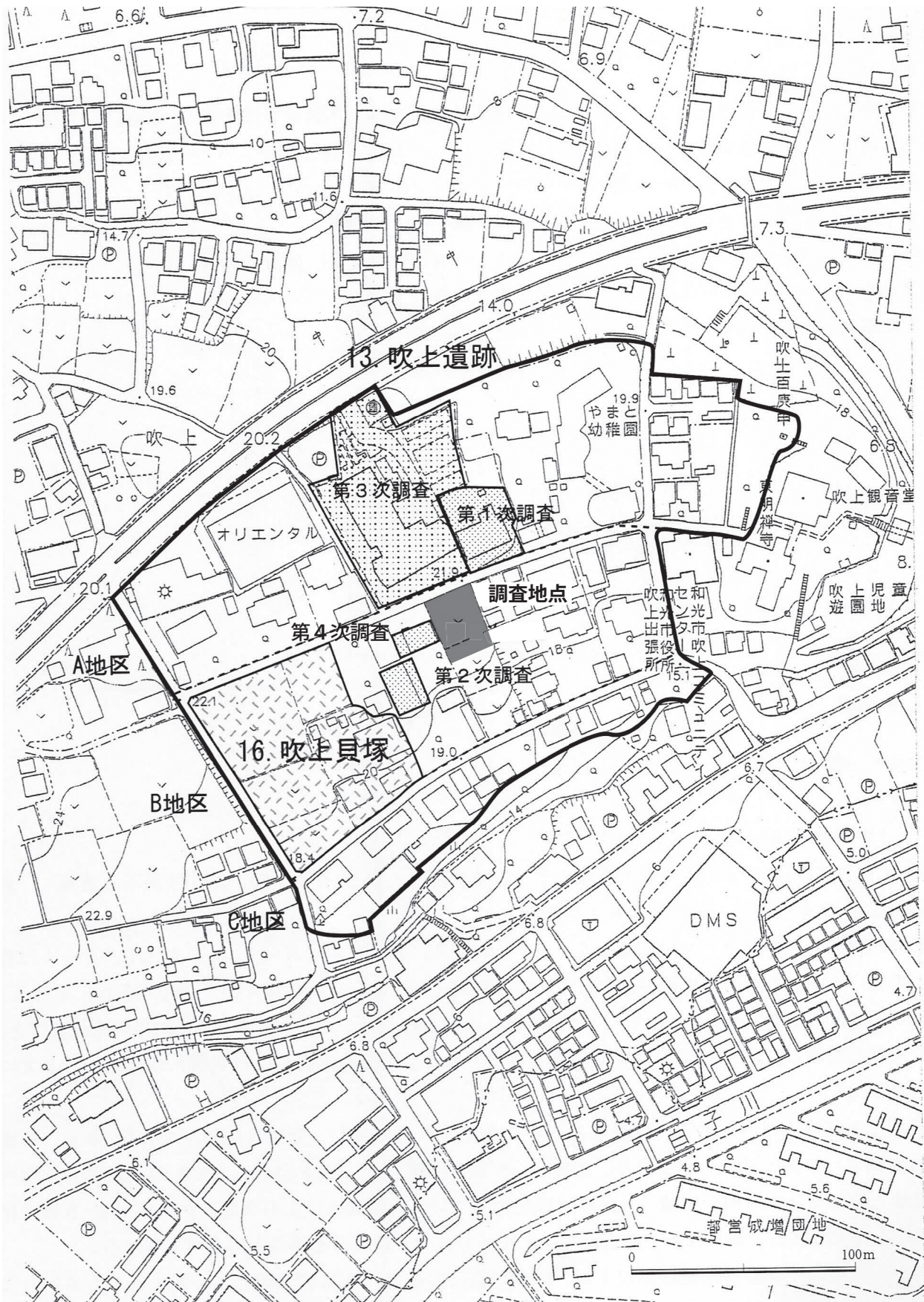
第4図2は、覆土上部から出土した。台付甕形土器の脚部破片である。表面は全体的に縦方向のハケ目調整、底部内面はヘラナデ、脚部内面は雑なハケ目調整が施されている。胎土は白色粒子、赤色粒子、小石を含む。色調は褐色（7.5 Y R 3/4）である。

## 4. まとめにかえて

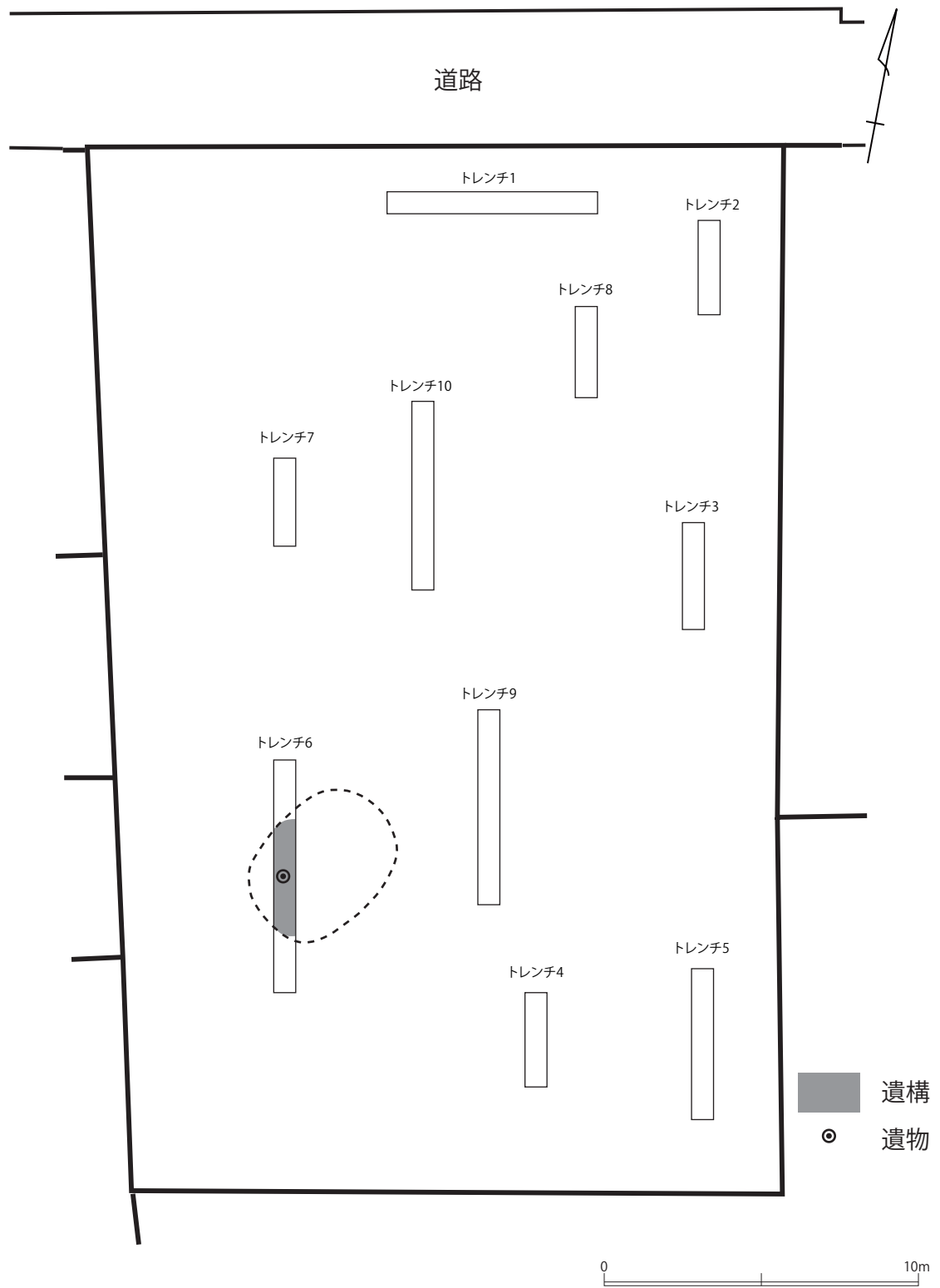
今回の確認調査地点は、盛土保存の措置となったが、遺物が出土したため、本紀要に資料報告として掲載した。第5図の吹上遺跡第3次調査区の南側で、環濠の推定ラインの判断も難しいが、環濠内側の住居跡と考えられる。出土遺物を見ても、第3次調査区の弥生時代後期中葉の住居跡及び環濠出土の土器（東海地方の影響を受けたハケ刺突文土器群・下戸塚式土器）と同様の土器と見られる。

### 【参考文献】

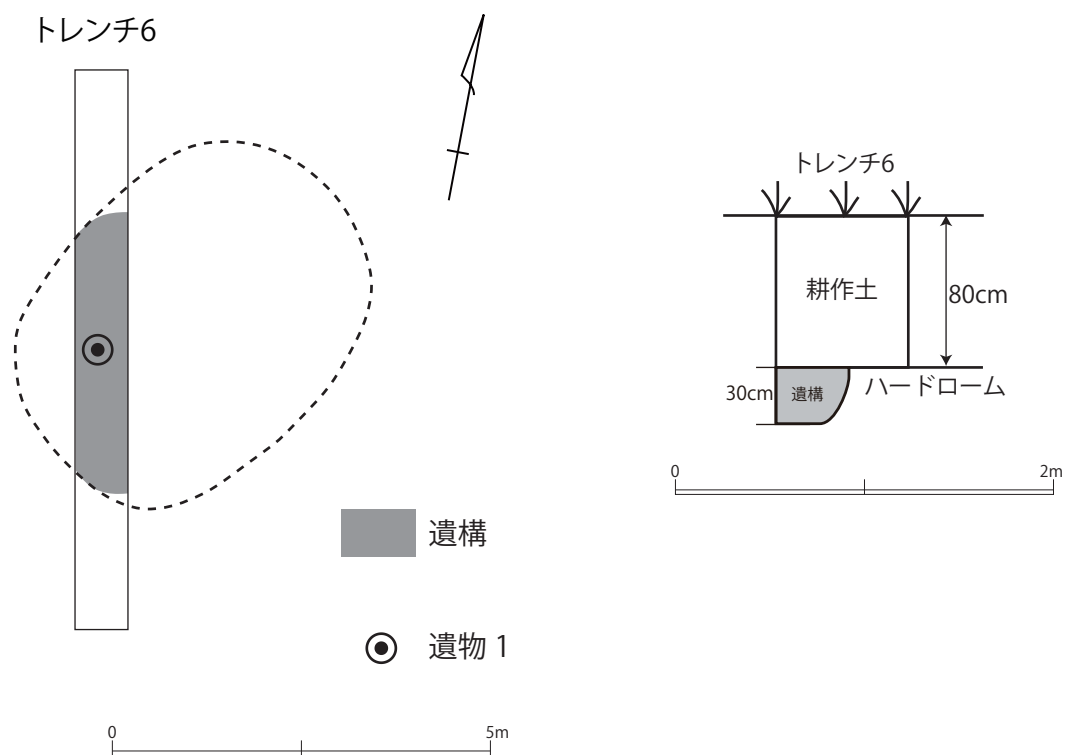
鈴木一郎ほか 2003『吹上遺跡（第3次）』和光市埋蔵文化財調査報告書第30集 和光市遺跡調査会・和光市教育委員会



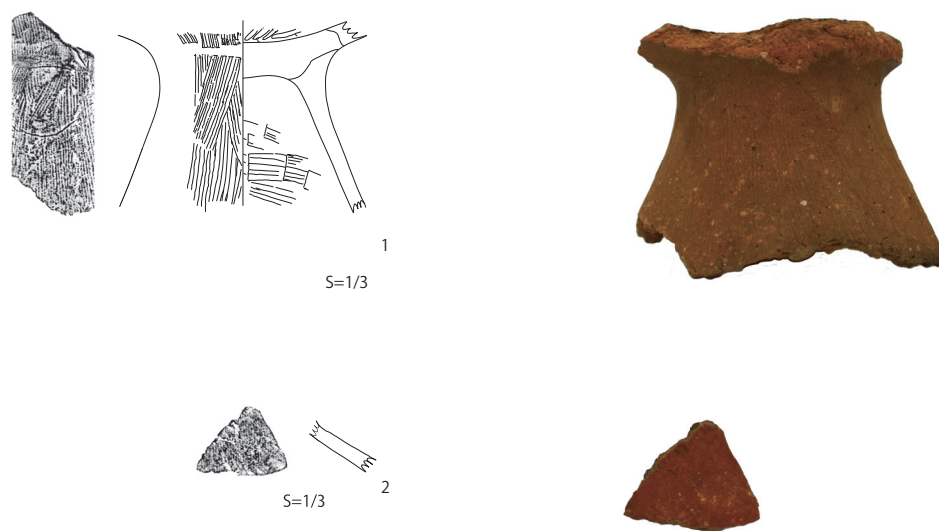
第1図 吹上遺跡調査位置図



第2図 確認調査トレンチ配置図

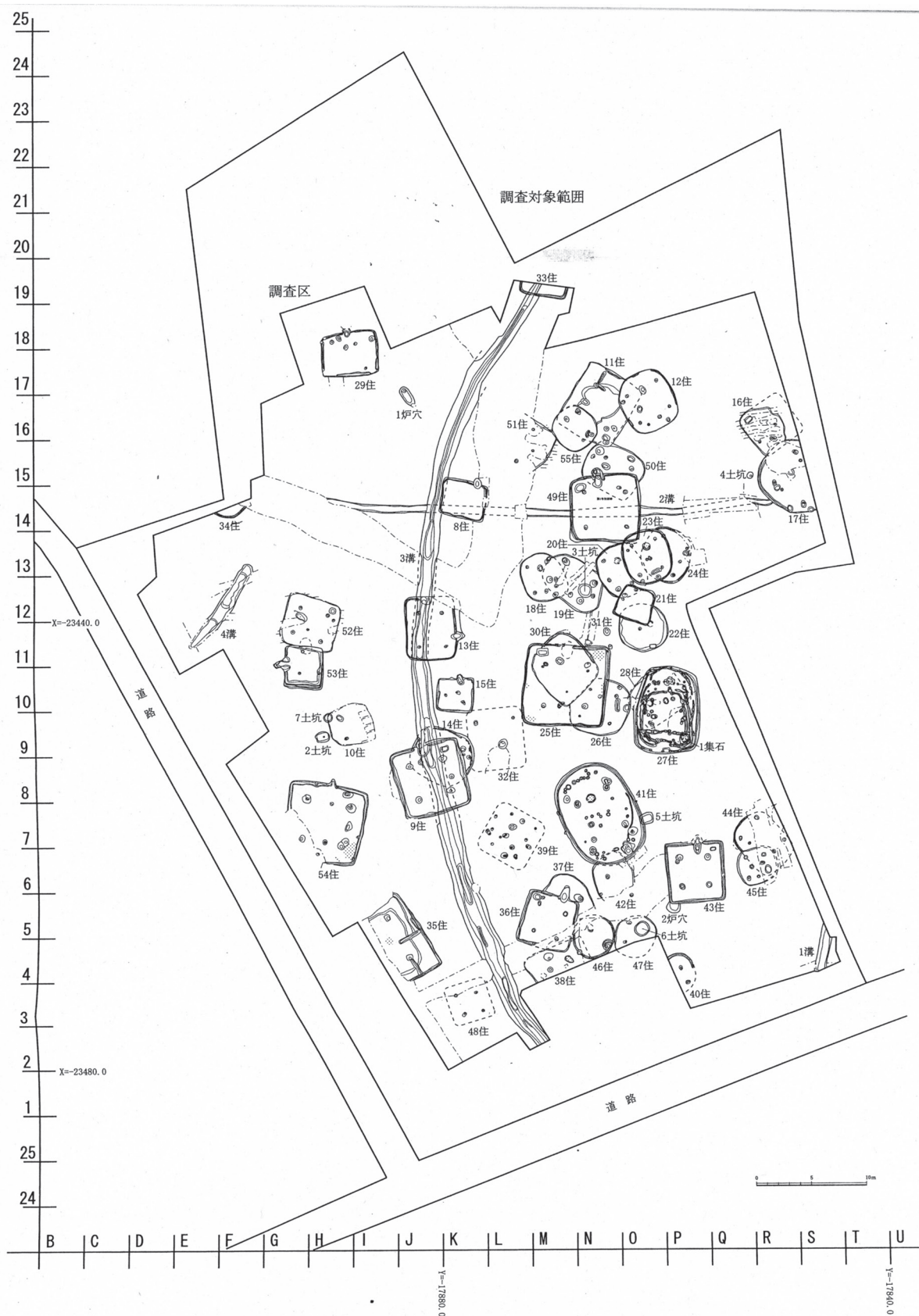


第3図 6トレンチ平面図・柱状図



第4図 確認調査出土遺物 実測図・写真





第5図 吹上遺跡(第3次) 遺構配置図



第6図 確認調査地点全景



第7図 1 トレンチ掘削状況



第8図 6トレンチ掘削状況



第9図 6トレンチ遺構確認（住居跡）



第10図 6トレンチ土器確認状態



第11図 6トレンチ土器出土状態

すずき 一郎 (和光市教育委員会)

# 富士塚調査で気付いた盃状穴

野澤 均

## 1. はじめに

富士塚調査を実施している中で盃状穴の施される石造物の存在に気付いた。盃状穴は、凹石などとも呼ばれているようで、まだ用途や成因については定説が無いようである。和光市内に盃状穴が存在しているとは想定していなかったこともあり、いささかびっくりしている。本論では、歴史的・民俗学的にも盃状穴が重要な資料であると考えられることから、簡単ではあるが資料紹介をする。

## 2. 下新倉氷川八幡神社富士塚の盃状穴

### (1) 手水鉢

報告書番号 1-6 手水鉢 (第 1・2 図) に盃状穴が確認された。この手水鉢は、高さ 35cm × 幅 67cm × 奥行 44cm を測る、平面長方形を呈す小形の資料である。正面には丸吉講の講文、右側面には明治 4 (1871) 年 6 月の造立銘が認められる。盃状穴が確認できるのは、上面凹部の縁取り部のみである。

## 3. 浅久保浅間神社富士塚の盃状穴

### (1) 手水鉢

報告書番号 3-6 手水鉢 (第 3・4 図) に盃状穴が確認された。この手水鉢は、高さ 40cm × 幅 77cm × 奥行 46cm を測る、平面長方形を呈す小形の資料である。正面には奉獻の文字が刻まれ、右側面には明治 6 (1873) 年銘と下新倉同行の銘があり丸吉講により造立されたものであることが分かる。盃状穴が確認できるのは、上面凹部の縁取り部のみである。水抜きかもしれないが今回取り上げた。

### (2) 台石

報告書番号 3-49 台石 (第 5 図) に盃状穴が確認された。この台石は、高 18cm × 幅 42cm × 奥行 42cm を測る、平面長方形を呈す小形の資料である。銘文などは確認できなかった。また、浅久保浅間神社は、移転されていることからこの台石がどの石碑に対応していたのかは確認できない。盃状穴が確認できるのは、現在地表に露呈する上面部である。

### (3) 敷石

報告書番号 3-52 敷石 (第 6 図) に盃状穴が確認された。この敷石は、高さ 20cm × 幅 70cm × 奥行 35cm を測る、平面長方形を呈す小形の資料である。銘文などは確認できなかった。また、浅久保浅間神社は、移転されていることからこの敷石が当初どのように使用されていたか確認できない。盃状穴が確認できるのは、現在地表に露呈する上面部である。

## 4. 白子熊野神社の盃状穴

### (1) 鳥居

白子熊野神社の文化 11 (1814) 年造立明神鳥居 (第 7 ~ 9 図) の両側の根巻石上面に盃状穴が認められる。この鳥居は、白子熊野神社の参道に位置するもので、富士塚と直接関連はないものと思われる。今回は、富士塚調査の中で確認した物なので本論で取り上げた。

## 5. まとめ

以上のように、富士塚調査にあたり江戸時代から明治時代初頭にかけて造立された石造物 (5カ所) に盃状穴の存在が確認された。盃状穴の用途に関して国分直一氏は、朝鮮半島からの文化伝播として性シンボル崇拝対象 (註 1) として考察している。国分氏が指摘した神田山石

棺の盃状穴（註2）は第1号石棺とする蓋石の一部に21個が確認されている。山口市内では板石に施された穿孔を持つ石（註3）が20カ所確認されており、興味深い。

もし、盃状穴が石棺設置当初のものであるとするならば、盃状穴の起源は、弥生時代末から古墳時代初頭まで遡ることとなる。

また、能登健氏の「縄文時代の凹石に関する覚書」（註4）では、多孔石として群馬県嵩山遺跡や長野県下高井地方の例を引き「縄文時代における凹穴信仰が極限に達した状態である」として国分直一氏が指摘する盃状穴と同様に性シンボルの祭祀に関わるものとしている。現在確認される盃状穴が、これらの古い時代の盃状穴とどう繋がるのか今後の課題であろうが、非常に興味深いものである。

また、用途の問題も、国分氏や能登氏が指摘するように性神としても崇められているのであれば、安産信仰のある富士信仰に関連する石造物に盃状穴が施されることは、非常に興味深い。

しかし、『歩いてまわる和光市の金石文と石造物』（註5）によると和光市内にはほかにも白子松竹山観音寺や新倉医王山東林寺の手水鉢など、富士塚にかかわりのない場所にも盃状穴があることが報告されている。

近傍でも、井上國夫氏の「話題の石造物の盃状穴について」（註6）に志木市館ノ氷川神社手水鉢、中宗岡の庚申塔、宗岡の石橋に盃状穴の存在が報告され、また新座市内では平林寺の標柱や三本木墓地の地藏菩薩石仏や廻国供養塔・普門品供養塔、帖上墓地の地藏菩薩石仏、大和田観音堂跡地藏石仏などに盃状穴があることが報告されている。井上氏は「神仏を信仰する講中等の多くの人が、巡礼とか巡拝したとき、信仰の確認のために石でコツコツと叩き、やがて穴になったもの」と盃状穴を考察している。

加藤幸一氏は「石造物にみる謎の「盃状穴」（註7）の中で酒井正氏の説に触れ「石造物に小石を打ち続けながら、或いは盃状にこすりながら、さまざまな祈願をした信仰」の痕跡と捉

えている。酒井氏の思い出に語られる「毘沙門天碑」（註8）は、寄居町末野の善道寺門前のものだろうか。もし、そうであるならこの石碑の右側には、庚申塔を挟み3基の如意輪観音像があり女人に関する信仰の一端であった可能性も示唆されよう。

そのほか、筆者の管見に触れた民俗事例としては、辻川季三郎の『石を穿つもの 江戸時代の泉州安産信仰』（註9）がある。辻川氏は、盃状穴を「石盆」と称し安産信仰の産物とし、旧和泉国の事例を神社78カ所（111例）、寺院72カ所（81例）を集成した。面白い傾向として手水鉢や井戸杵など水に関わる192例中135例あり、和光市の富士塚調査でも手水鉢に盃状穴が確認されている。水に関する信仰との関連も考える必要があるだろうか。しかし、手水鉢は参道に設置される石造物で、神社仏閣の参拝路に設置されるものである。このことから、参拝に伴う習俗として穿孔されたものということも、また頷けよう。

このように盃状穴の用途や時代背景の言及問題の解決にはまだまだ行き着けない。ここでは、従来知られていなかった盃状穴が身近に存在していることのみを報告にとどめる。

また、脱稿後、福田敏一の「盃状穴について」（註10）に触れる機会を得た。いくつかの民俗事例の報告や柳田国男氏「石の枕」などとの関連など大変興味深い記述があった。さらには、三浦孝一氏の「盃状穴考」（註11）での盃状穴の分類や学史的な記述など興味深く拝読した。これら重要指摘に対しては、まだ、回答の一端すら持たないのが筆者の現状である。和光市内には、まだいくつかの盃状穴の実例があるようであることから、これらの調査実施後、改めて考察したいと考えている。

#### 【註】

註1 国分直一 1981「Ⅶ盃状穴の系統とその象徴的意味」（松岡睦彦ほか『神田山石棺』山口市教育委員会 pp32～37所収）

註2 松岡睦彦ほか 1981『神田山石棺』山口市教育委員会 pp11～16

- 註3 松岡睦彦 1981「VI山口盆地周辺の盃状穴板石」  
(松岡睦彦ほか『神田山石棺』 山口市教育委員会  
pp24～31 所収)
- 註4 能登健 1978「縄文時代の凹石に関する覚書」(『信  
濃』第30巻第4号 信濃史学会 pp38～43)
- 註5 和光市歴史と文化を学ぶ会編 2013『歩いてま  
わる和光市の金石文と石造物』 和光市歴史と文化  
を学ぶ会
- 註6 井上國夫 2010「話題の石造物の盃状穴について」  
(『郷土志木』第39号 志木市郷土研究会 pp86  
～91)
- 註7 加藤幸一「石造物にみる謎の「盃状穴」」(『NPO  
法人越谷市郷土研究会』ホームページ) ([http://  
bc3456de.sakura.ne.jp/67.pdf](http://bc3456de.sakura.ne.jp/67.pdf))
- 註8 酒井正『石仏画の世界 私家版 さいたまの石  
仏』(希少塔編 総覧 p41) ([https://plaza.rakuten.  
co.jp/itasan31078/diary/?ctgy=26](https://plaza.rakuten.co.jp/itasan31078/diary/?ctgy=26))
- 註9 辻川季三郎 1995『石を穿つもの 江戸時代の  
泉州安産信仰』 私家版
- 註10 福田敏一 2022「盃状穴について」(『東京の道  
祖神塔事典』 株式会社雄山閣 pp294～303)
- 註11 三浦孝一 1990「盃状穴考」(国分直一監修  
1990『盃状穴考』慶友社所収 初出1986『河(別  
冊)』)

【参考文献】

- 国分直一監修 国領駿 小早川成博編 1990『盃状穴  
考』慶友社



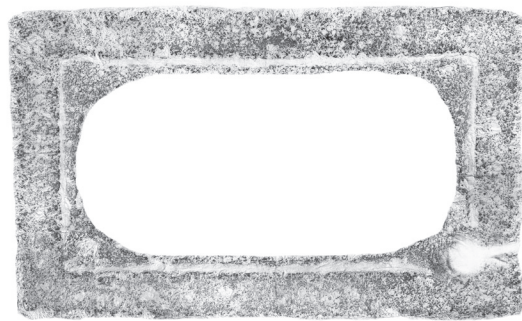
第1図 下新倉氷川八幡神社 手水鉢



第2図 下新倉氷川八幡神社 手水鉢 盃状穴



第3図 浅久保浅間神社 手水鉢



第4図 浅久保浅間神社 手水鉢 盃状穴



第5図 浅久保浅間神社 台石 盃状穴



第6図 浅久保浅間神社 敷石 盃状穴



第7図 白子熊野神社 鳥居



第8図 白子熊野神社鳥居（右側） 盃状穴





第9図 白子熊野神社鳥居（左側） 盃状穴



第10図 下新倉氷川八幡神社富士塚



第 11 図 浅久保浅間神社富士塚



第 12 図 白子熊野神社富士塚

のざわ ひとし（和光市教育委員会）

# 和光市内富士塚の石造物について

大内一雄 田中由美

## 1. はじめに

富士塚は富士山を信仰する富士講によって築造され、登ることにより富士登拝と同等の御利益が得られるとされてきた。

和光市内には、下新倉氷川八幡神社富士塚、白子熊野神社富士塚、浅久保浅間神社富士塚の三基の富士塚が存在する。和光市教育委員会では平成29年7月より調査を実施し、富士塚に現存する石造物についても明らかになった。和光市文化財調査報告書第1集「和光市の富士塚」では詳細に報告できなかった大変興味深い石造物の詳細について記す。

石造物の銘文のうち旧字体は常用漢字に書き換えた部分もある。

## 2. 富士塚築造に関する石造物

富士塚を築造した際の記念碑を紹介する。これらの碑文には築造の時期や経緯、協力者の名が記されている。

### (1) 下新倉氷川八幡神社富士塚「奉納歌碑・築山碑(富嶽誌)」(報告書番号1-8)【第1図】

年代：明治四辛未年(1871)六月

法量：高さ102cm 幅85cm 厚さ10cm

形状：板状 石質：安山岩

正面には祥光山金泉寺第十八代住職台岡撰の御伝(身禄入定の歌)「御鏡の教へのことくこの心すへの代までも祈るうれしさ」が刻まれる。

裏面上段には富嶽誌が刻まれ、嘉永二年(1849)に旧社を再興し、明治三年(1870)には塚を築造し、翌年には由緒を表し豊穀安民を祈願したことが記される。

裏面下段には再山築立連としてセハ人・発願主・神主のほか交名が刻まれる。

### (2) 白子熊野神社富士塚「築山碑」(報告書番号2-7)【第2・3図】

年代：明治三歳在庚午(1870)夏

法量：高さ130cm 幅175cm 厚さ20cm

形状：板状 石質：安山岩

上部を尖がらせ、富士山を模る大型の石造物である。

正面には丸瀧講の講紋が刻まれる。

裏面上段には明治三年(1870)に「白子新富士」が築造されたこと、下段には当山築山連として世話人・脇先達・願主先達のほか交名が記される。

## 3. 富士塚山頂の石造物

富士塚の山頂に建立された主尊を祀る石碑や石祠を紹介する。

### (1) 下新倉氷川八幡神社富士塚「神名碑(浅間太神)」(報告書番号1-10)【第4・5図】

年代：嘉永元申年(1848)四月吉

法量：高さ155cm 幅41cm 厚さ16cm

形状：板状 石質：片岩

富士塚の山頂に造立され、正面に神名「浅間太神(アサマノオオカミ)」が刻まれる。アサマノオオカミとは富士山の山神で本来「浅間大神」と記されるが、本碑では「浅間太神」と刻まれている。

台石にはセワ人・交名・石工が刻まれる。

富嶽誌の碑文からも、慶長年間に勧進した富士浅間神社を嘉永年間に再興し、明治三年(1870)に富士塚を築造したものと推測される。

### (2) 白子熊野神社富士塚「石祠」(報告書番号2-33)【第6図】

年代：明治三庚午歳(1870)六月吉日

法量：高さ 108cm 幅 59cm 厚さ 56cm  
 形状：石祠（入母屋造り）石質：安山岩  
 軒に丸瀧講の講紋が施される。石祠の扉はなく、「富士浅間大神祈禱神璽」が祀られる。  
 裏面には年号・願主が刻まれる。

### （3）浅久保浅間神社富士塚「石祠」（報告書番号 3-47）【第 7・8 図】

年代：神武天皇紀元二千五百三十三年（明治六年（1873））四月十五日  
 法量：高さ 70cm 幅 34cm 厚さ 30cm  
 形状：石祠（入母屋造り）石質：安山岩  
 注連縄が張られている。  
 裏面には再興願主、台石正面には氏子中、右側面・台石右左側面には交名が刻まれる。

## 4. 特徴のある石造物

和光市内富士塚には多くの石造物が造立されている。次に特に注目すべきものについて紹介する。

### （1）神猿

「神猿」とは狛犬の代わりに置かれたもので、富士信仰の神社や富士塚にみられる。富士山は庚申の年に出現したとされ、そのため猿は富士山のお使いとして古くから信仰されてきた。

3基の富士塚にはそれぞれ特徴のある神猿が祀られている。

#### ①下新倉氷川八幡神社富士塚

「神猿像」（報告書番号 1-7）【第 9 図】

年代：不明

法量：高さ 47cm 幅 18cm 厚さ 20cm

（右の神猿像のみ）

形状：彫刻石碑 石質：安山岩

丸彫像一对。損傷が激しく、左の神猿像は胸部より下のみ残存する。現在 2 体は同一の台石に固定されているが、もとは鳥居の左右に建てられていたと思われる。

#### ②白子熊野神社富士塚

「神猿碑（右）」（報告書番号 2-5）【10 図】

年代：不明

法量：高さ 85cm 幅 90cm 厚さ 12cm

形状：板状 石質：安山岩

「神猿碑（左）」（報告書番号 2-6）【37】～【39】

年代：不明

法量：高さ 86cm 幅 115cm 厚さ 14cm

形状：板状 石質：安山岩

左右ともに線刻板石。右は阿形、左は吽形。互いに向き合い手を合わせる。参道入口の鳥居の左右に建てられ、富士山北口一合目馬返しを再現しているのだろう。

#### ③浅久保浅間神社富士塚

「神猿碑（右）」（報告書番号 3-44）【第 12 図】

年代：不明

法量：高さ 81cm 幅 67cm 厚さ 10cm

形状：板状 石質：安山岩

「神猿碑（左）」（報告書番号 3-45）【第 13 図】

年代：不明

法量：高さ 69cm 幅 56cm 厚さ 11cm

形状：板状 石質：安山岩

左右ともに線刻板石。鳥居をくぐり石灯籠側に横並びに建てられる。右は阿形、左は吽形。互いに向き合い手を合わせる。右の神猿像には「上赤□」、左の神猿には「練□」「赤□」の文字が確認され、「上赤塚」「練馬」「赤塚」の地名が刻まれていると思われ、これらの地域の富士講との関わりが予想される。

#### （2）浅久保浅間神社富士塚「行者座像」（報告書番号 3-17）【第 14 図】

年代：元禄十一戊寅天（1698）八月十五日

法量：高さ 69cm 幅 56cm 厚さ 30cm

形状：石像 石質：安山岩

「元禄十一戊寅天（1698）八月十五日」銘の台座に乗る行者座像。瓔珞（首飾りや胸飾り）の痕と思われる穴が正面・裏面にみられる。また行者の持ち物である檜扇の痕跡が左袂に確認される。

胸には「長」の文字が刻まれ、修験道の行者

であり富士講の開祖とされた「長谷川角行」の座像の可能性がある。長谷川角行（天文十年（1541）～正保三年（1646））の五十回忌供養のために建てられたものと推察される。

### （3）浅久保浅間神社富士塚「九神碑」（報告書番号 3-23）【第 15・16 図】

年代：明治七甲戌歳（1874）六月廿二日

法量：高さ 113cm 幅 113cm 厚さ 14cm

形状：板状 石質：安山岩

上部を尖がらせ、富士山を模る大型の石造物。中央には、建築前に行われる手斧初の儀式の神である天思兼命（アメノオモイカネノミコト）・手置帆負命（タオキホオイノミコト）・彦狭知命（ヒコサシリノミコト）、聖徳皇太子の線刻が施される。

また、木の神である久久能智神（ククノチカミ）、火の神である火産霊神（ホムスビノカミ）・土の神である埴山毘売神（ハニヤマヒメノカミ）、金の神である金山毘古神（カナヤマヒコノカミ）、水の神である弥都波能売神（ミツハノメノカミ）の名が刻まれる。

聖徳太子は仏像の造立や寺塔の建立など、建築の基礎を打ち立てたとされている。「諸職人中」という銘文からもこの碑は職人らによって造立されたものであり、職人が聖徳太子を祀る太子信仰を象徴した石造物である。

同様にこれらの神々を祀る石造物は志木市田子山富士でも確認されている（田子山富士石造物「90 諸神祭祀碑」 埼玉県志木市教育委員会 平成 8 年（1996）3 月 22 日 志木市の文化財第二十二集 調査報告書「田子山富士（下）」P.92）。

## 5. 終わりに

富士講は江戸時代中期から流行となり、江戸時代末期から明治時代以降富士登拝の流行とともに富士塚は次々と造られるようになった。富士山は明治 5 年（1872）まで女人禁制であった。富士山に行けない人のために手軽に登れる富士塚は盛んに築造されたのである。

富士塚は富士山を模して築造され、石造物によって富士山に存在する名称・施設なども再現されている。富士山登山の記念碑や、地元の富士講による石造物も多々建立された。また、築山碑や、完成を祝って他地域の富士講によって建立された石造物などからは、築造当時の様子や他地域の富士講との関係もうかがえる。

富士塚の山頂には奥宮をあらわす石祠を建てているが、下新倉氷川八幡神社富士塚のように「浅間大神（下新倉氷川八幡神社富士塚では「浅間太神）」などと刻んだ石碑に置き換えている場合もある。

紀元前 301 年庚申（かのえさる）の年に富士山が姿を現したとする故事から、猿は神社のお使いとされている。神猿像や神猿碑は富士山や富士塚の登山口に置かれ、その神猿は合掌して富士山を拜んでいる。上新倉の富士講では富士塚を築いていないが、新倉氷川八幡神社境内の富士嶽浅間神社には富士講碑「富士嶽浅間神社大神」が建立され、碑の前には正面を向いた丸彫神猿が鎮座している。

富士塚の石造物には石工の名が刻まれていることも多い。また、浅久保浅間神社富士塚の九神碑は職人によって造立されたものであり、富士塚は多くの職人の手によって築かれたこともわかる。

このように、富士塚に建立された石造物やその碑文を調査することにより、築造の歴史、他地域の富士講との関係性、さらに地元富士講の特徴を明らかにすることができる。江戸時代末期から明治時代、さらに今日に至るまでの庶民の信仰や生活を知る手がかりのひとつになるだろう。

### 【参考文献】

- 伊藤堅吉 1963『富士講のおうた考』富士高原開発研究所  
 岩科小一郎 1983『富士講の歴史 江戸庶民の山岳信仰』名著出版  
 埼玉県志木市教育委員会 1996『志木市の文化財第二十二集 調査報告書「田子山富士（上）（下）」』埼玉

玉県志木市教育委員会

平野榮次 1987 民衆宗教史叢書第十六卷『富士浅間  
信仰』雄山閣出版

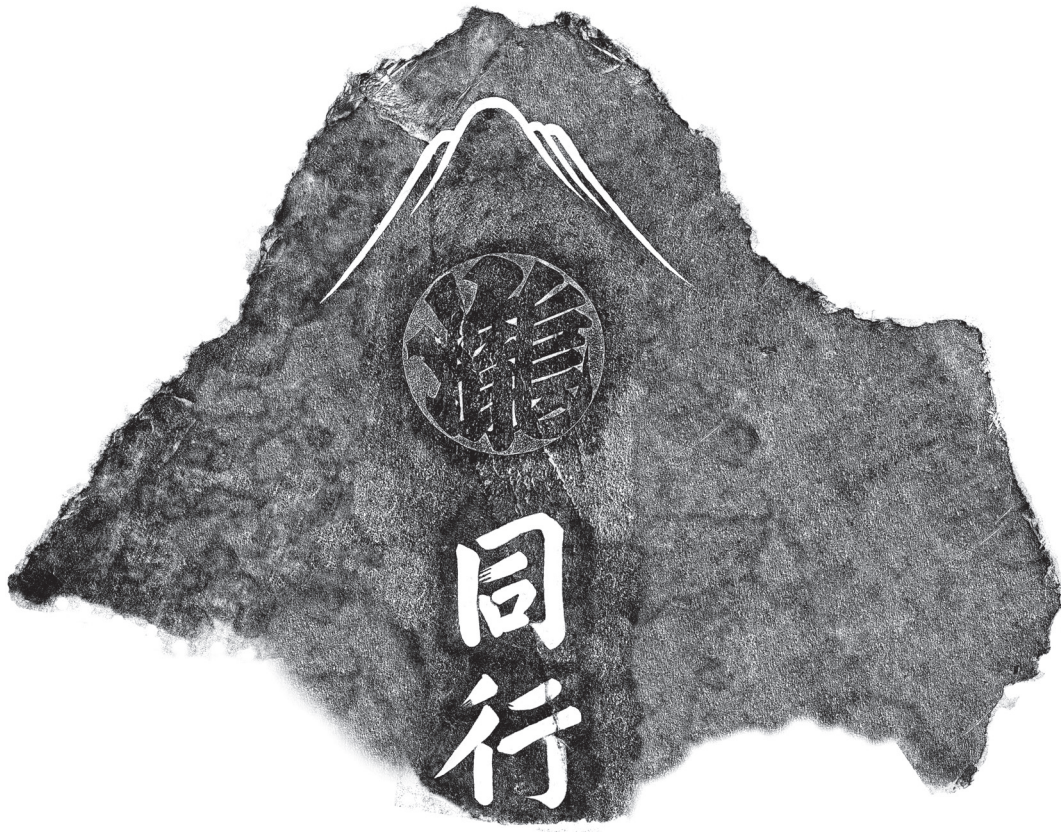
和光市 1983『和光市史 民俗編』和光市

和光市教育委員会 2023 和光市文化財調査報告書  
第1集『和光市の富士塚』和光市教育委員会





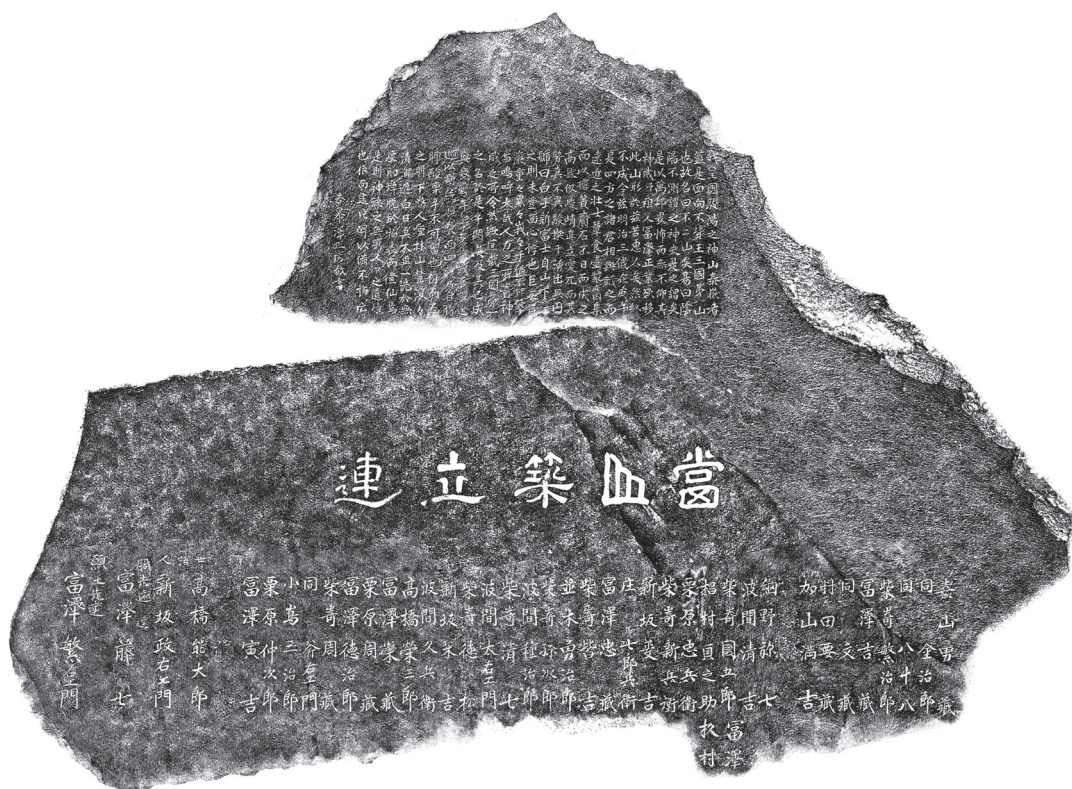
写真（裏面）



拓本（表面）

第2図 白子熊野神社富士塚 築山碑（1）





拓本（裏面）



（正面）

（裏面上段）

我皇國駿勝之神山崇嶽者蓋是面曰不二山矣易曰陰陽不測謂之神天是之謂矣是以方邦畏怖而無不仰其神威予祖父富澤正業欲移此山形於茲昔思久矣然終不成今茲明治三歲在庚午夏四方之諸君相與議之而遠近之壯士盡盛騰騰集而以擔輿石不自而成之高數似峻真立足而視其勢真不異峻嶽于湧出具因号曰白子新富士自山下望之則未登而心慄也巨石見巖重々累々我々乎猶不所攀為嗚呼文哉人力之所寄神之威之所令然歎恒怙三國第一之名於是乎明矣及其已成與衆場千鑿碧鐵石稜邊逡巡以到絕頂矣而四顧乃目眩脚酸灑乎不可留也何而臨之明下界人煙山麓澗々清滝漣日真不異一洗於無塵明輝脫於物表而登仙焉是則神德之無窮人力之遺蹟也依而建片碑以備不朽云

春泉 澤 正彦敬書

### 當山築立連

（裏面下段）

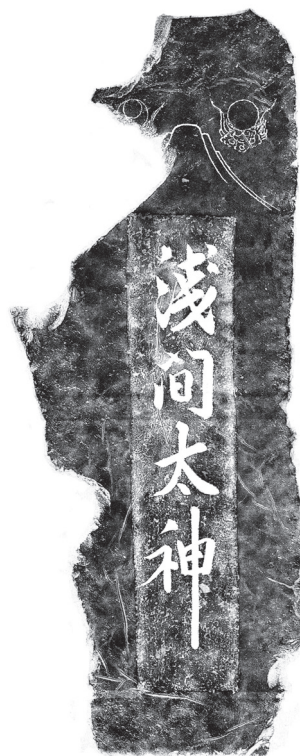
嘉山勇藏 同 金次郎 同 八十八 柴崎繁治郎 富澤吉藏 同 文藏 村田要藏 加山滿吉 富澤 細野弥七 浪野清吉 柴崎國五郎 柴崎貞之助 栗原忠兵衛 柴崎新兵衛 新坂政吉 庄七郎兵衛 富澤忠藏 柴崎德松 並木勇治郎 柴崎孫次郎 浪間種治郎 柴崎清七 浪間太右工門 柴崎德松 新坂久兵衛 高橋榮三郎 富澤榮藏 栗原周藏 富澤德治郎 同 春右工門 小島三治郎 栗原仲次郎 富澤寅吉 高橋熊太郎 新坂政右工門 富澤藤七 願主先達 富澤繁右工門

#### 解説文

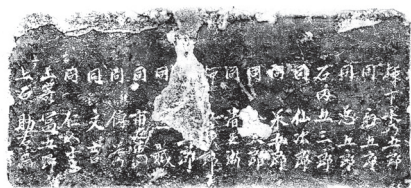
第3図 白子熊野神社富士塚 築山碑（2）



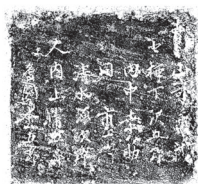
写真（表面）



拓本（表面）



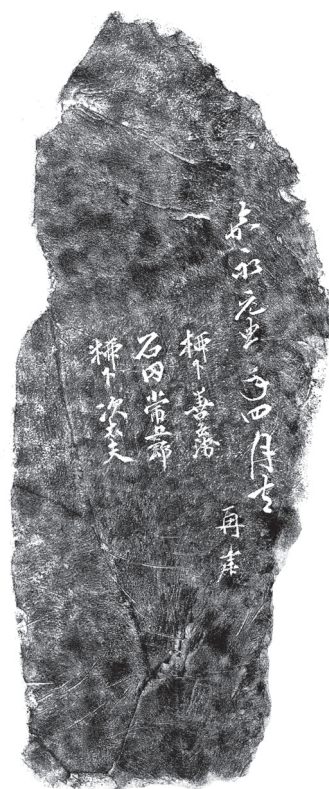
拓本（台石正面）



拓本（台石右側面）

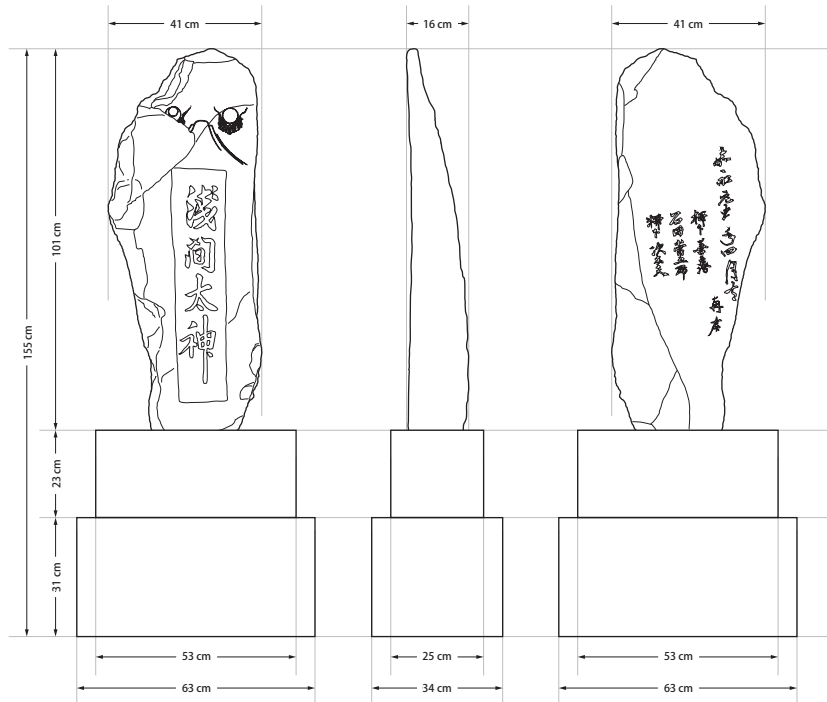


拓本（台石左側面）



拓本（裏面）

第4図 下新倉氷川八幡神社富士塚 神名碑（浅間太神）（1）



実測図

浅間太神

(裏面)

嘉永元年申年四月吉  
再建

柳下善兵衛  
石田常五郎  
柳下次太夫

(正面)

(台右正面)

柳下秀五郎  
同 □五郎  
同 忠五郎  
同 石田五三郎  
同 仙次郎  
同 米五郎  
同 □太郎  
同 清兵衛  
柳 □郎  
柳 □郎  
同 清兵衛  
同 内山常五郎  
同 清水源次郎  
同 市

(台右側面)

山崎 □  
柳下沢五郎  
田中孝助

(台右左側面)

野浦与市  
清水与七  
大 □菊五郎  
磯崎仲次郎  
同 幸吉  
同 文次郎  
山内勘之丞  
□ 栄蔵

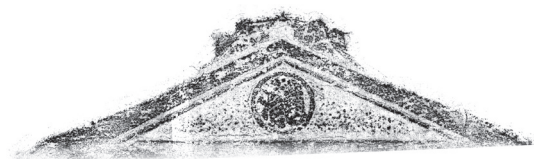
上ノ  
上原助右衛門  
山崎富五郎  
同 仁五吉  
同 文吉  
同 伝蔵  
同 市左衛門  
同 □蔵  
同 □郎  
同 □郎  
同 清兵衛  
同 内山常五郎  
同 清水源次郎  
同 市

解説文

第5図 下新倉氷川八幡神社富士塚 神名碑（浅間太神）（2）



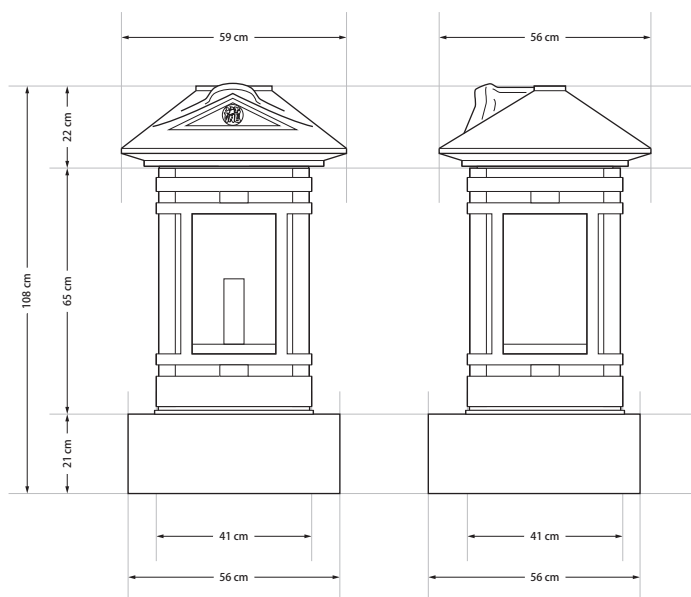
写真 (正面)




拓本 (上部屋根正面)



拓本 (裏面)



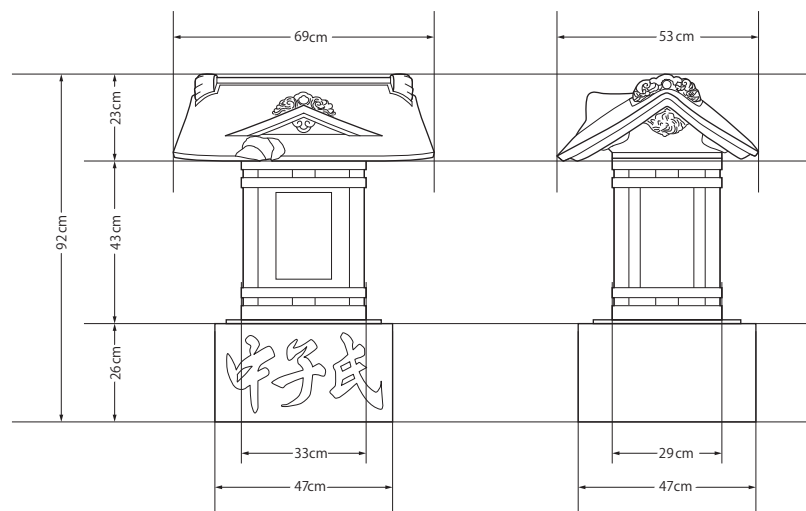
実測図

(裏面)  
 明治三庚午歳  
 六月吉日  
 願主  
 富澤繁右工門  
 (上部屋根正面)  
  
 龍  
 解読文

第6図 白子熊野神社富士塚 石祠

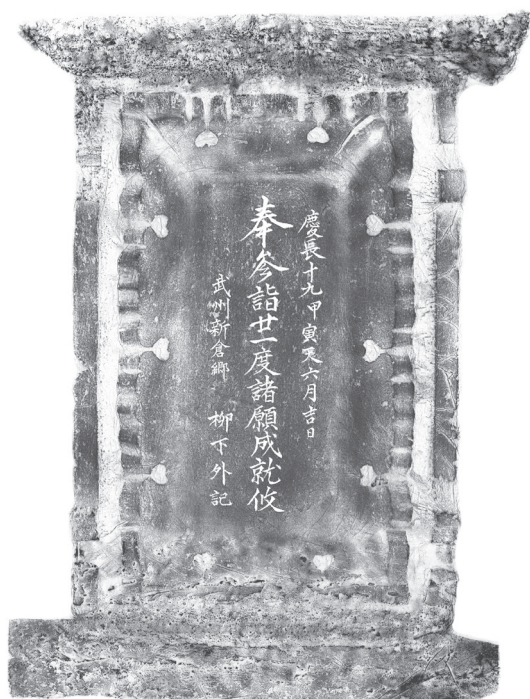


写真 (正面)



実測図

第7図 浅久保浅間神社富士塚 石祠 (1)



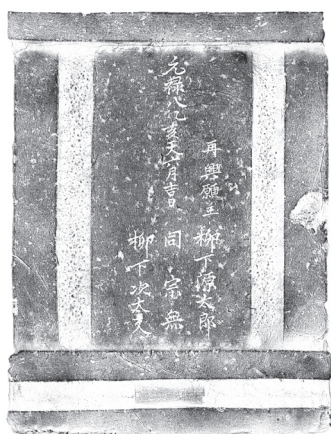
拓本（裏面）

（左側面） 神武天皇紀元二千五百三十三年四月十五日再々建  
 慶長十九甲寅六月吉日  
 奉參詣廿一度諸願成就依  
 武州新倉郷柳下外記  
 （右側面） 再興願主柳下源太郎  
 元禄八乙亥六月吉日 同 宗無  
 柳下次太夫  
 （台石正面） 氏子中  
 吹上 柳下富太郎  
 吹上 柳下幸太郎  
 浅久保 柳下傳内  
 長島 柳下織右衛門  
 吹上 柳下源太郎  
 吹上 柳下藤次郎  
 下里 柳下源五郎  
 浅久保 柳下利八  
 吹上 柳下陽哉

解読文



拓本（台石正面）



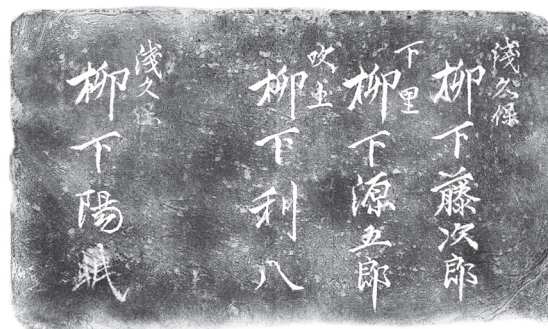
拓本（右側面）



拓本（左側面）



拓本（台石右側面）



拓本（台石左側面）

第8図 浅久保浅間神社 石祠（2）



写真（正面）



拓本（左・裏面）



拓本（右・裏面）

第9図 下新倉氷川八幡神社富士塚 神猿像



写真 (正面)



拓本 (正面)



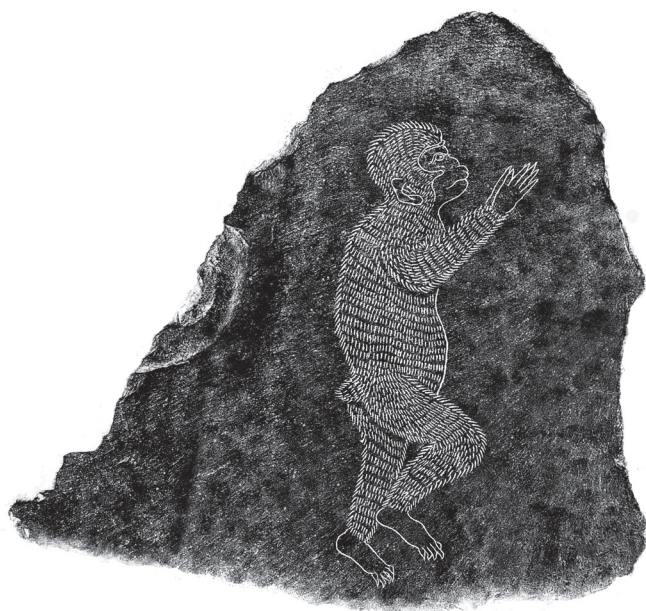
陽像

第10図 白子熊野神社富士塚 神猿碑 (右)





写真（正面）



拓本（正面）

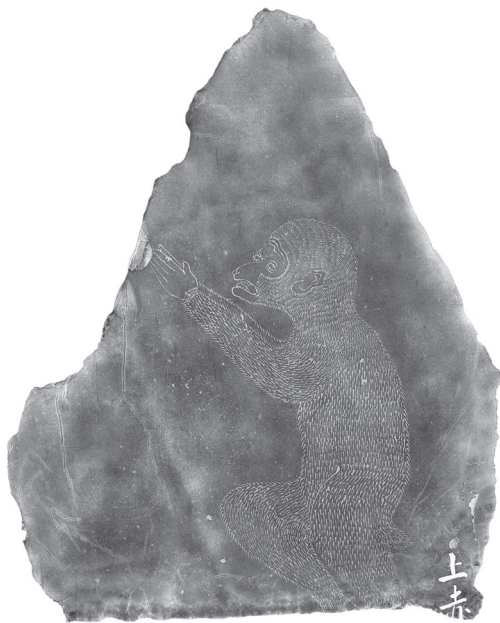


陽像

第 11 図 白子熊野神社富士塚 神猿碑（左）



写真 (正面)



拓本 (正面)

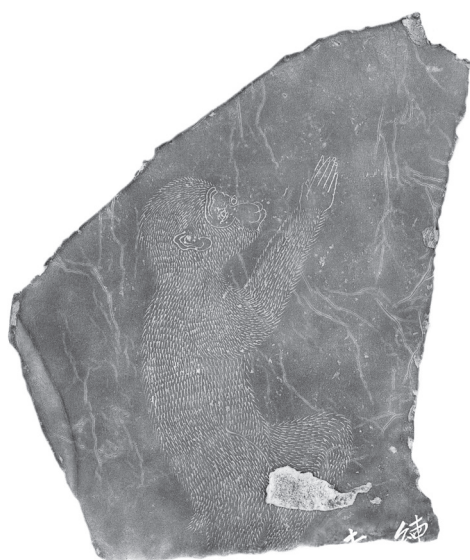


陽像

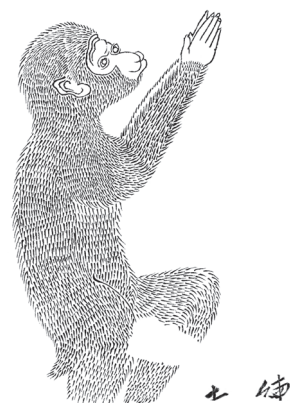
第12図 浅久保浅間神社富士塚 神猿碑 (右)



写真（正面）



拓本（正面）



陽像

第13図 浅久保浅間神社富士塚 神猿碑（左）



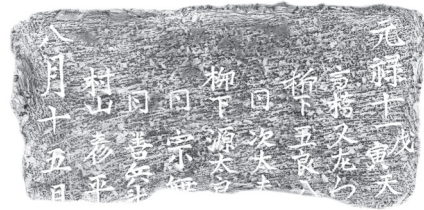
写真（正面）



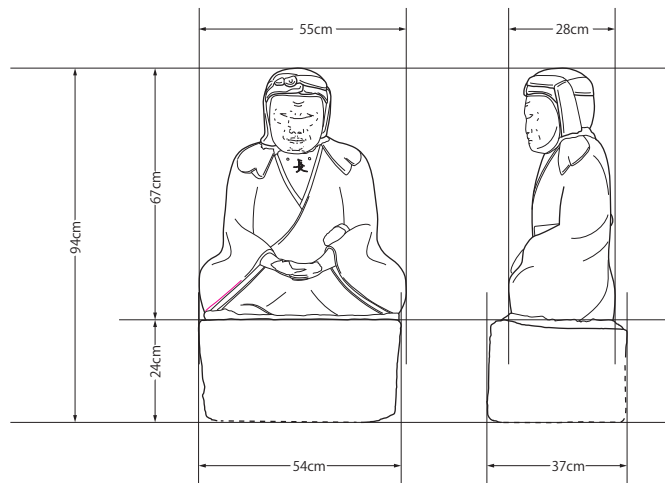
拓本（胸部）

（正面）（胸元）長□  
 （台座正面）元禄十一戊寅天  
 高橋又左エ門  
 柳下五良八  
 同 次太夫  
 柳下源太良  
 同 宗無  
 同 善兵衛  
 村山彦平  
 八月十五日

解説文



拓本（台座正面）

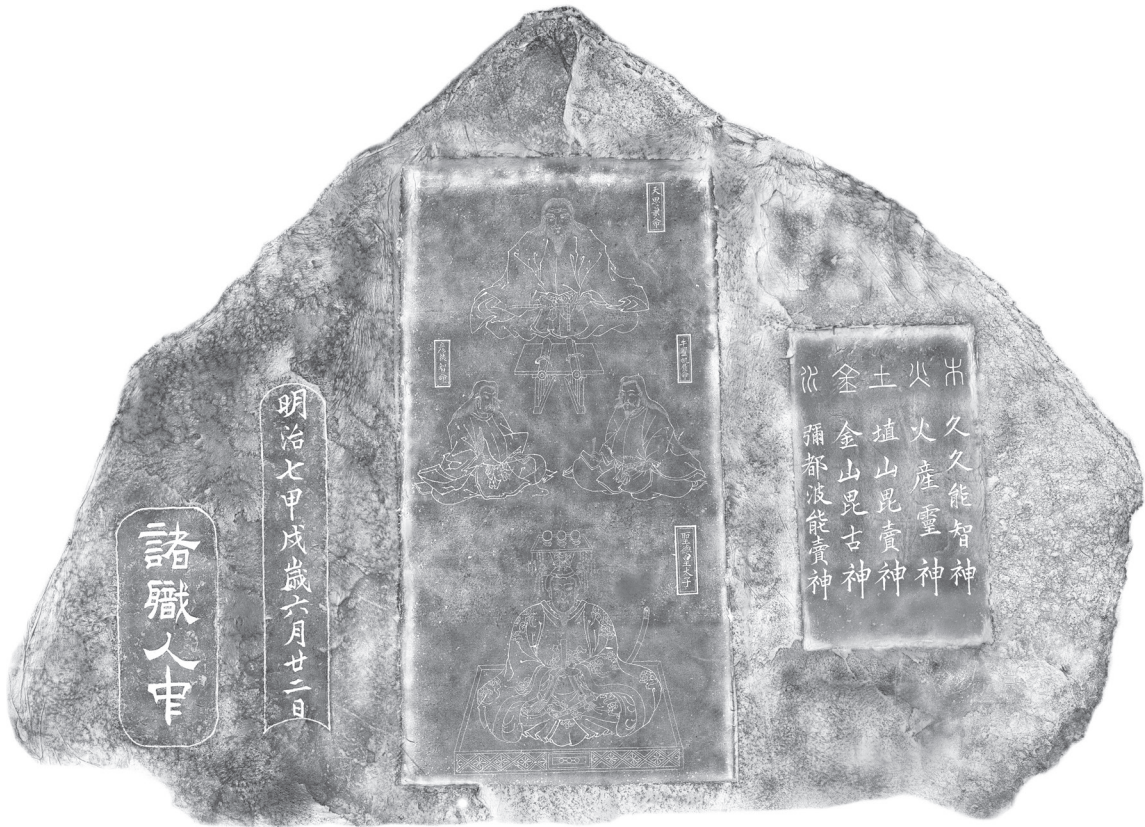


実測図

第14図 浅久保浅間神社富士塚 行者座像



写真 (正面)



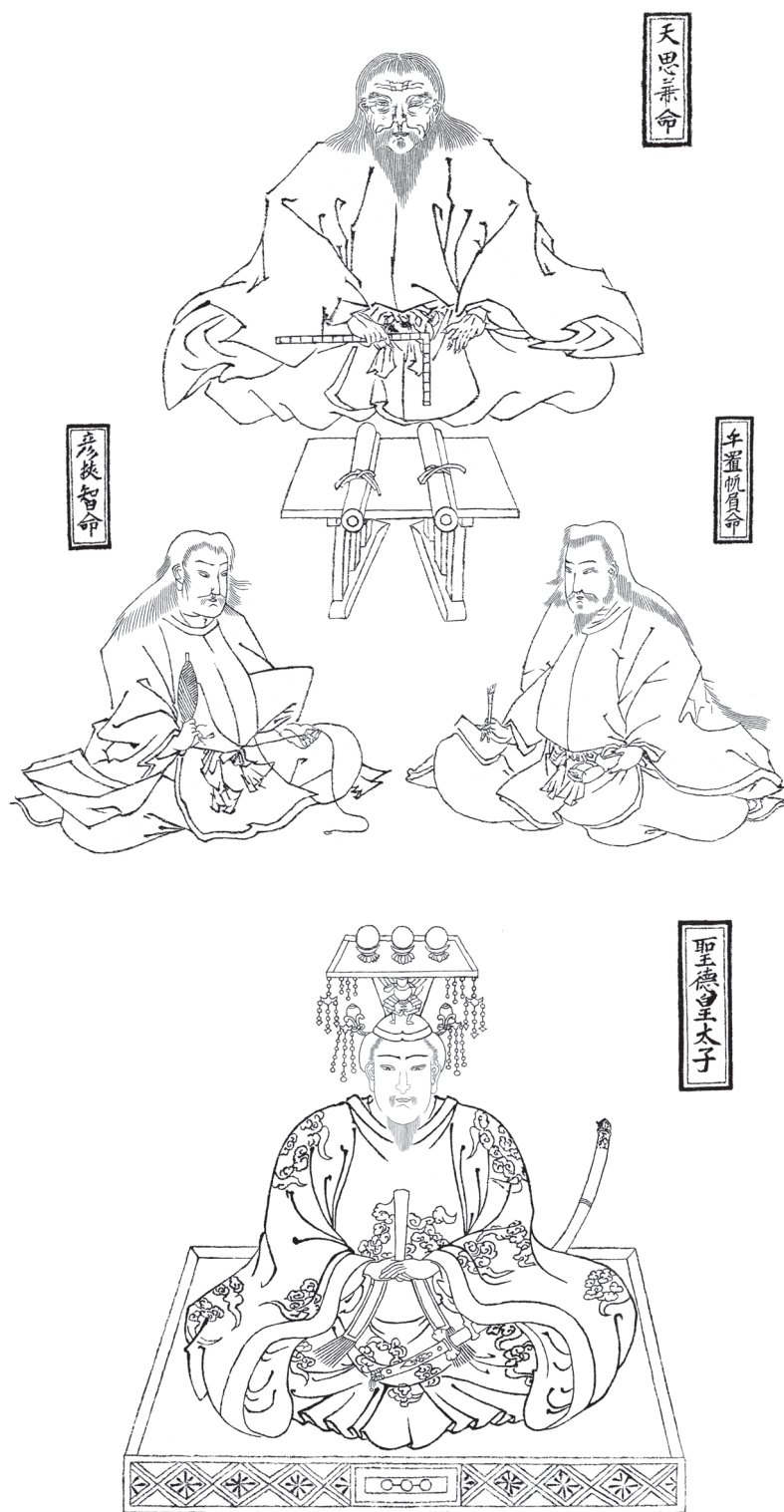
拓本 (正面)

彦狹智命 (画像)	天思兼命 (画像)	手置帆負命 (画像)	木 久久能智神 火 火産靈神 土 埴山昆壳神 金 金山昆古神 水 弥都波能壳神
	聖德皇太子 (画像)		

明治七甲戌歲六月廿二日  
 諸職人中

解説文

第 15 図 浅久保浅間神社富士塚 九神碑 (1)



陽像

第16図 浅久保浅間神社富士塚 九神碑(2)

おおうち かずお (和光市教育委員会)

たなか ゆみ (和光市教育委員会)

## 令和4(2022)年度 和光市埋蔵文化財調査年報

江口やよい

## 1. はじめに

この年報は、和光市教育委員会が令和4(2022)年度に実施した埋蔵文化財に関わる調査をまとめたものである。今年度、試掘調査を18件、工事立会を11件、計29件の確認調査を実施した。また、4件の発掘調査を実施した。

試掘調査は、重機と人力による掘削作業と、測量・記録撮影を行った。工事立会は、作業状況を確認したのち記録撮影を行った。

調査ごとに、調査地の諸情報と概要、試掘調査については調査範囲を平面図化・断面図化し、また、作業状況等を撮影した写真により報告しまとめた。

## 2. 表記の仕方

1. 挿図の縮尺は、調査地点位置図は1/2500、確認調査トレンチ配置図・トレンチ柱状図は任意の縮尺である。
2. 調査地点位置図は、和光市役所発行の地形図（平成20年修正）を一部加筆・修正加工して使用した。
3. 遺跡名の前に表記したNo.は、一覧表の番号と一致する。なお、ページ順については、試掘調査を調査日順に掲載した後、工事立会をまとめて紹介した。

資料1 令和4(2022)年度 埋蔵文化財確認調査一覧表

No.	遺跡名(No.)	原因	調査日	調査地	面積(m <sup>2</sup> )	調査概要
1	西越後山遺跡 (11-042)	個人住宅建設	R4 4.13	南1丁目2542番4 の一部	129.57	遺構・遺物は 確認されなかった。
2	西越後山遺跡 (11-042)	分譲住宅建設	R4 4.22	南1丁目2543-15 の一部	129.60	遺構・遺物あり。和光市教育委員会による発掘調査。
3	越之上遺跡 (11-039)	公園施設の 撤去工事	R4 5.18	白子2丁目11番地 内	631.30	工事立会。
4	仏ノ木遺跡 (11-036)	宅地造成	R4 5.24	下新倉4丁目 833番1・834番1 835番・836番2	846.56	遺構・遺物あり。和光市教育委員会による発掘調査。
5	仏ノ木遺跡 (11-036)	個人住宅建設	R4 6.10	下新倉3丁目 925番5	103.47	遺構・遺物は 確認されなかった。
6	市場峡・市場上遺跡 (11-017)	分譲住宅建設	R4 6.16	白子3丁目 586-15	85.34	遺構・遺物は 確認されなかった。
7	白子宿上遺跡 (11-019)	ガス管理設工事	R4 6.23 6.24	白子2丁目12	17.82	工事立会。
8	西越後山遺跡 (11-042)	集合住宅建設	R4 7.7	南1丁目2535番3 の一部	499.52	遺構・遺物は 確認されなかった。
9	仏ノ木遺跡 (11-036)	分譲住宅建設	R4 7.12	下新倉3丁目 905番10	132.47	遺構・遺物は 確認されなかった。
10	越後山遺跡 (11-041)	宅地造成 分譲住宅建設	R4 7.21	南1丁目2397番3 2399番24	473.02	遺構・遺物は 確認されなかった。

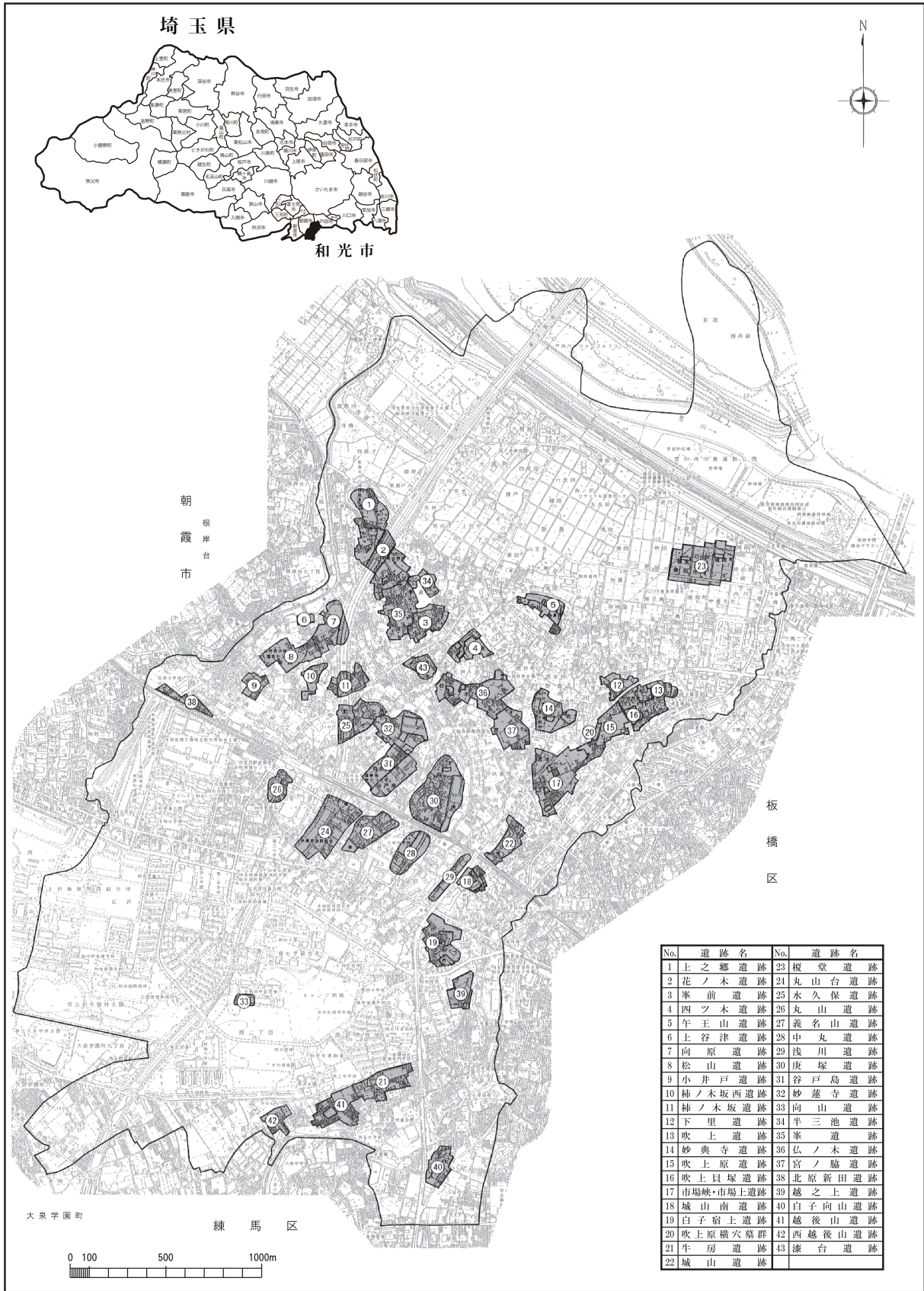
No.	遺跡名(No.)	原因	調査日	調査地	面積(m <sup>2</sup> )	調査概要
11	向原遺跡 (11-007)	ガス管理設工事	R4 7.29	新倉1-29、1-31	30.20	工事立会。
12	下里遺跡 (11-012)	ガス管理設工事	R4 8.1	下新倉4丁目2214-2・-3、2215-9、2255-3、2257-2、2258-2・-3・4	30.00	工事立会。
13	柿ノ木坂遺跡 (11-011)	個人住宅建設	R4 8.23	新倉1-3765-1	196.44	遺構・遺物は確認されなかった。
14	市場峡・市場上遺跡 (11-017)	ガス管理設工事	R4 9.14	白子3-6、3-28	45.96	工事立会。
15	吹上遺跡 (11-013)	電柱移設工事	R4 9.15 11.22	白子3丁目 4434-1	2.00	工事立会。
16	越之上遺跡 (11-039)	その他の開発 (ボーリング)	R4 10.17	白子2丁目 1356-1他	12197.00	工事立会。
17	仏ノ木遺跡 (11-036)	個人住宅建設	R4 10.26	下新倉4-4-66	730.38	遺構・遺物は確認されなかった。
18	吹上遺跡 (11-013)	支線張替工事	R4 10.28	白子3丁目 4397-3地先	2.00	工事立会。
19	白子宿上遺跡 (11-019)	個人住宅建設	R4 11.4	白子2丁目1094番2、1098番2の各一部	188.92	遺構・遺物は確認されなかった。
20	峯遺跡 (11-035)	集合住宅建設	R4 11.21	新倉2丁目 3529-10、 3529-12	98.03	遺構・遺物は確認されなかった。
21	吹上遺跡 (11-013)	倉庫・事務所 建設	R4 11.24	白子3丁目4432-1、 4433-1、4434-2、 4435-1	2476.73	遺構・遺物は確認されなかった。
22	向原遺跡 (11-007)	分譲住宅建設	R4 11.25	新倉1丁目 3847番8	99.89	遺構・遺物は確認されなかった。
23	向原遺跡 (11-007)	ガス管理設工事	R4 12.6	新倉1-29	11.70	工事立会。
24	吹上遺跡 (11-013)	駐車場建設	R4 12.20	白子3丁目 4385-1	704.00	遺構・遺物あり。 盛土保存。
25	花ノ木遺跡 (11-002)	分譲住宅建設	R4 12.23	新倉2丁目 3459番6の一部	109.18	遺構・遺物は確認されなかった。
26	仏ノ木遺跡 (11-036)	電柱移設工事	R5 2.3	下新倉4丁目 833-3、834-1	2.00	工事立会。
27	牛房遺跡 (11-021)	電柱建替工事	R5 2.13	南1丁目 2275-10、 2275-33	4.00	工事立会。
28	花ノ木遺跡 (11-002)	個人住宅建設	R5 2.17	新倉2丁目 21-50	108.36	遺構・遺物あり。和光市教育委員会による発掘調査。
29	越之上遺跡 (11-039)	集合住宅建設	R5 3.14 3.15	白子2丁目11他	11582.00	遺構・遺物あり。和光市教育委員会による発掘調査。



資料2 令和4(2022)年度 埋蔵文化財発掘調査一覧表

No.	遺跡名	原因	調査期間	遺構の概要	遺物の概要	面積	
						上段: 工事面積	下段: 発掘調査面積
1	西越後山遺跡 第3次調査	分譲住宅建設前の記録保存に伴う発掘調査	R4 4.22	縄文時代早期の 炉穴1基	なし	129.60㎡ 129.60㎡	
2	仏ノ木遺跡 第8次調査	宅地造成前の記録保存に伴う発掘調査	R4 7.7 ～ 7.21	平安時代(9世紀)の 住居跡1軒、弥生時代 後期～古墳時代の 住居跡2軒	弥生時代土器片 平安時代須恵器	846.56㎡ 48.75㎡	
3	午王山遺跡 第16次調査	保存目的の 確認調査	R4 8.2 ～ 9.22	弥生時代環濠と みられる溝1基	弥生時代土器片	— 108.00㎡	
4	花ノ木遺跡 第16次調査	個人住宅建設前の記録保存に伴う発掘調査	R5 2.21 ～ 3.1	弥生時代の溝1基	縄文時代・弥生時代 土器片	108.36㎡ 108.36㎡	

※遺構・遺物の概要は、調査時の見解を速報として記載したものであり、整理作業の過程において変更となる場合がある。



第1図 和光市遺跡分布地図

試掘調査

No. 1 西越後山遺跡

調査目的 個人住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査

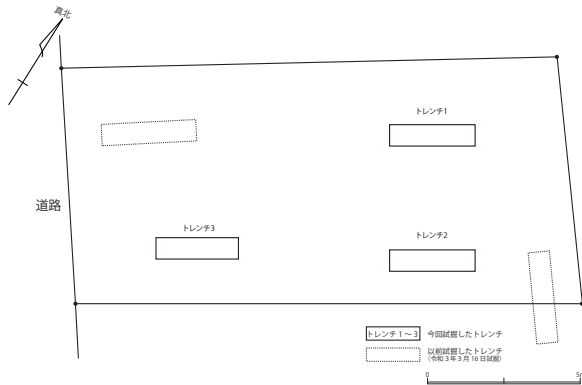
調査地点 南1丁目2542番4の一部

調査日程 令和4年4月13日

調査面積 129.57㎡

調査概要 調査地は、西越後山遺跡(11-042)の北西に位置する。調査は、対象地内に幅約70cm長さ約2m70cm～2m80cmのトレンチを3本設定した(第3図)。調査区全体を70cm～80cm程度まで掘り下げた(第4図)。

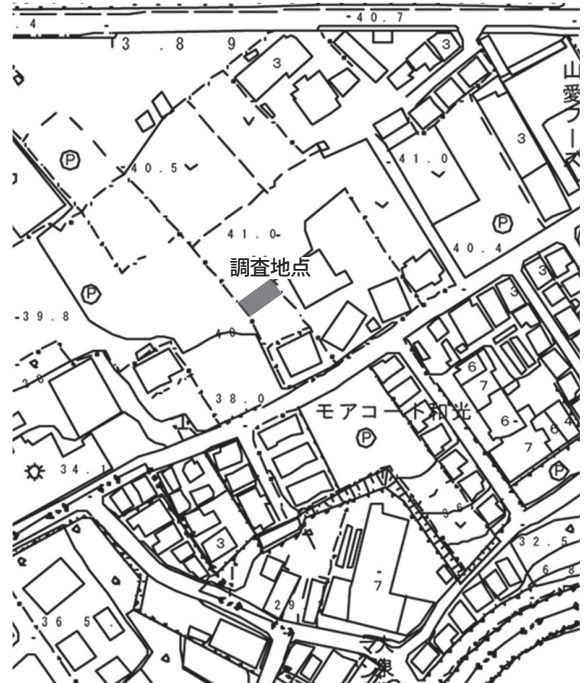
調査の結果、本地点では、遺構・遺物包含層及び遺物は認められなかった。



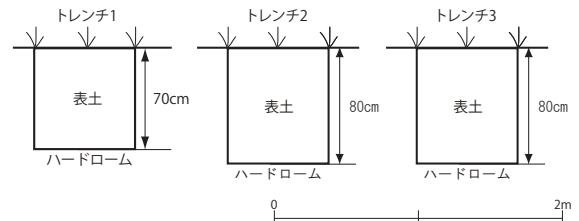
第3図 トレンチ配置図



トレンチ写真1



第2図 調査地点位置図 (S=1/2500)



第4図 トレンチ柱状図



トレンチ写真2

## 試掘調査

### No. 2 西越後山遺跡

調査目的 分譲住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査

調査地点 南1丁目2543-15の一部

調査日程 令和4年4月22日

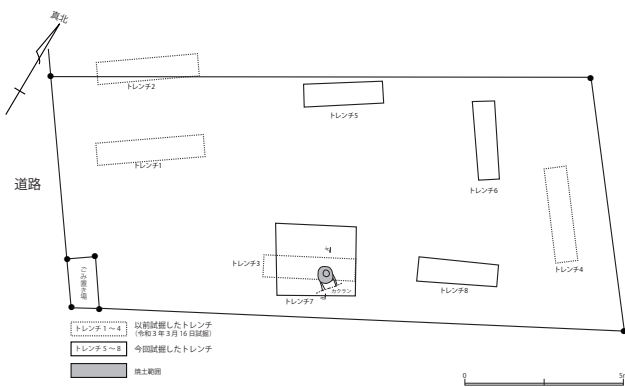
調査面積 約129.60m<sup>2</sup>

調査概要 調査地は、西越後山遺跡(11-042)の北西に位置する。調査は、対象地内に幅約70cm長さ約2m50cmのトレンチを3本と幅2m20cm長さ2m50cmのトレンチを1本設定した(第6図)。調査区全体を70cm~80cmまで掘り下げた(第7図)。

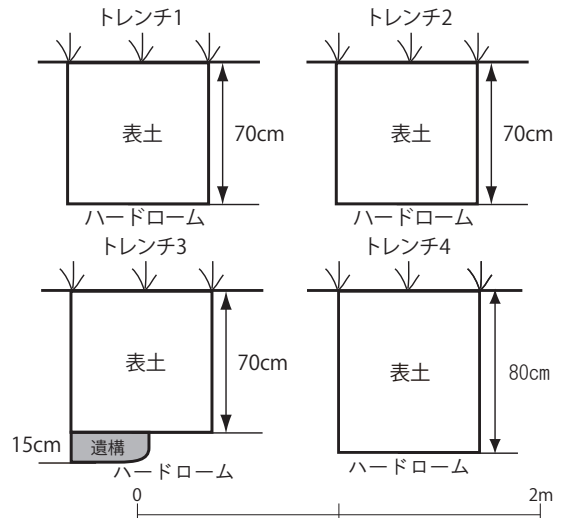
調査の結果、本地点で、遺構・遺物包含層が確認され、即日発掘調査を行うこととなった。



第5図 調査地点位置図 (S=1/2500)



第6図 トレンチ配置図



第7図 トレンチ柱状図



写真1



写真2

試掘調査

No. 4 仏ノ木遺跡

調査目的 宅地造成に伴う埋蔵文化財確認調査

調査地点 下新倉4丁目833番1・834番1  
835番・836番2

調査日程 令和4年5月24日

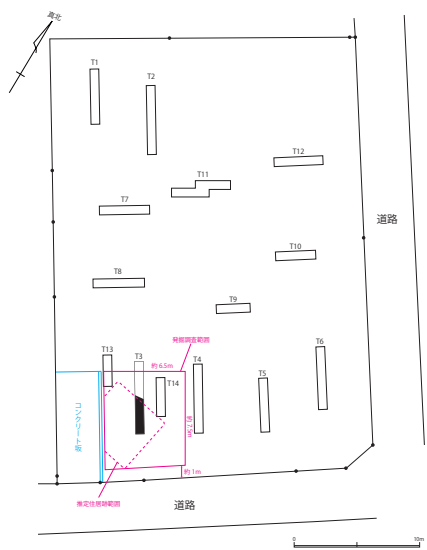
調査面積 846.56㎡

調査概要 調査地は、仏ノ木遺跡(11-036)の東南に位置する。調査は、対象地内に幅約70cm長さ約2m50cm～5m80cmのトレンチを14本設定した(第9図)。調査区全体を80cm～120cmまで掘り下げた(第10図)。

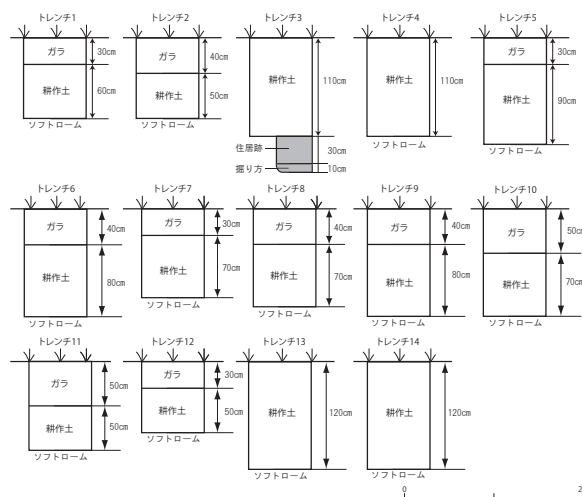
調査の結果、本地点で、遺構・遺物包含層及び遺物が確認され、発掘調査を行うこととなった。



第8図 調査地点位置図 (S=1/2500)



第9図 トレンチ配置図



第10図 トレンチ柱状図



写真1



写真2

試掘調査

No. 5 仏ノ木遺跡

調査目的 個人住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査

調査地点 下新倉3丁目925番5

調査日程 令和4年6月10日

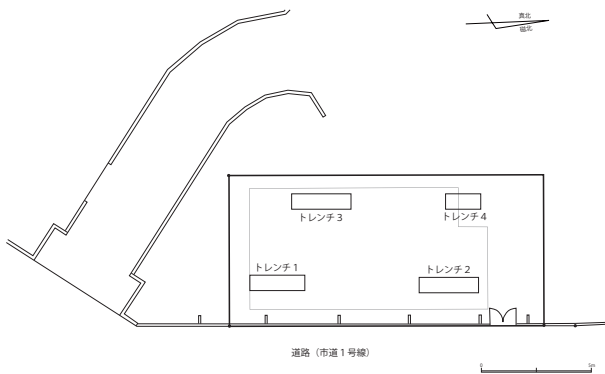
調査面積 103.47㎡

調査概要 調査地は、仏ノ木遺跡(11-036)の中央に位置する。調査は、対象地内に幅約70cm長さ約1m60cm～2m70cmのトレンチを4本設定した(第12図)。調査区全体を20cm～100cm程度まで掘り下げた(第13図)。

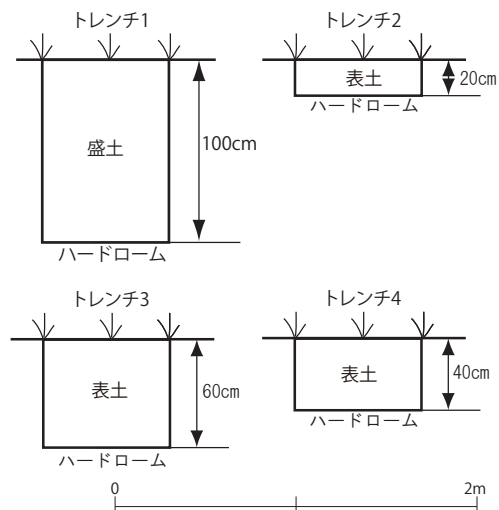
調査の結果、本地点では、遺構・遺物包含層及び遺物は認められなかった。



第11図 調査地点位置図 (S=1/2500)



第12図 トレンチ配置図



第13図 トレンチ柱状図



写真1



写真2

試掘調査

No. 6 市場峡・市場上遺跡

調査目的 分譲住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査

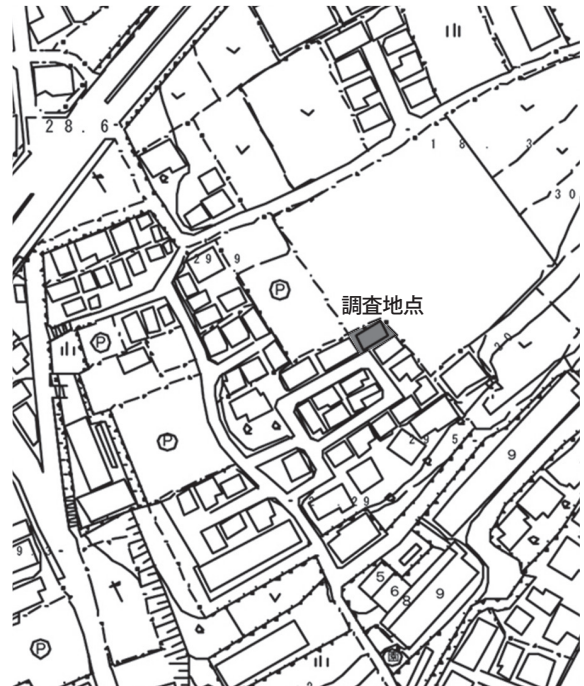
調査地点 白子3丁目 586-15

調査日程 令和4年6月16日

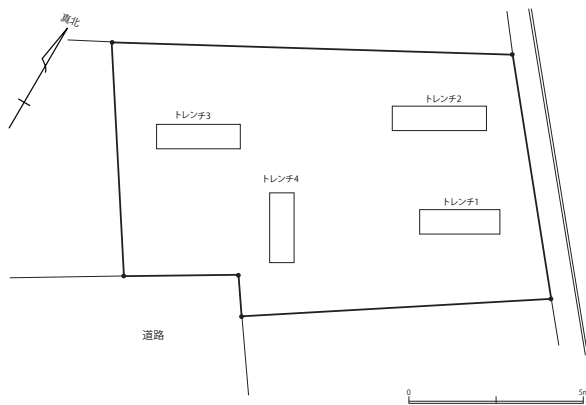
調査面積 85.34㎡

調査概要 調査地は、市場峡・市場上遺跡(11-017)の西寄りに位置する。調査は、対象地内に幅約70cm長さ約2m～2m70cmのトレンチを4本設定した(第15図)。調査区全体を60cm～100cm程度まで掘り下げた(第16図)。

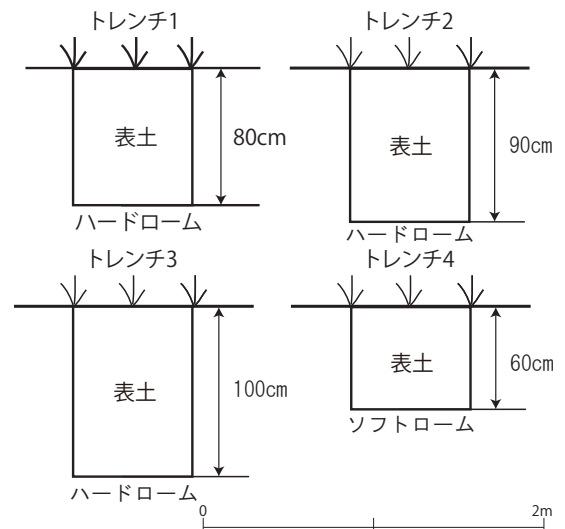
調査の結果、本地点では、遺構・遺物包含層及び遺物は認められなかった。



第14図 調査地点位置図 (S=1/2500)



第15図 トレンチ配置図



第16図 トレンチ柱状図



写真1



写真2

試掘調査

No. 8 西越後山遺跡

調査目的 集合住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査

調査地点 南1丁目2535番3の一部

調査日程 令和4年7月7日

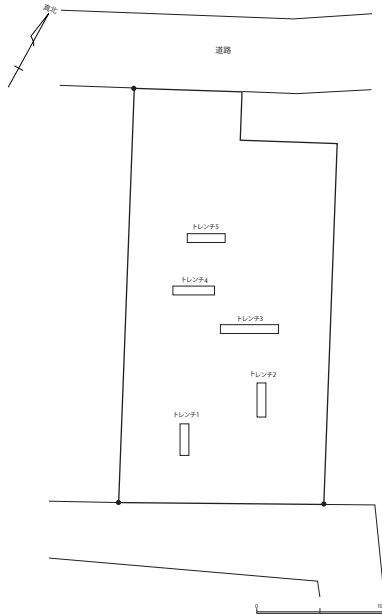
調査面積 499.52㎡

調査概要 調査地は、西越後山遺跡(11-042)の中央に位置する。調査は、対象区内に幅約70cm長さ約2m50cm～4m60cmのトレンチを5本設定した(第18図)。調査区全体を60cm～200cm程度まで掘り下げた(第19図)。

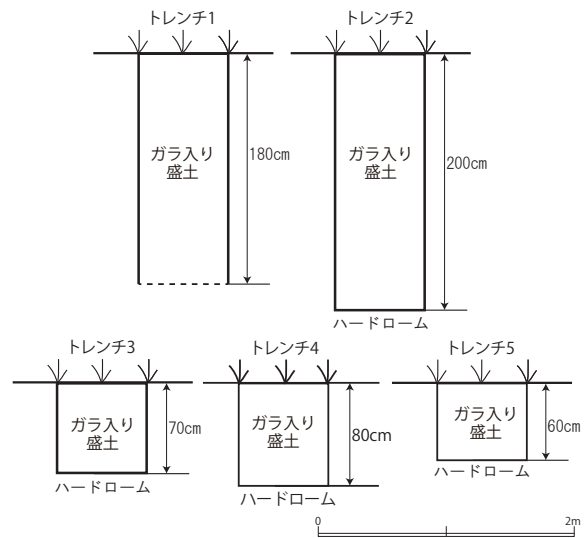
調査の結果、本地点では、遺構・遺物包含層及び遺物は認められなかった。



第17図 調査地点位置図 (S=1/2500)



第18図 トレンチ配置図



第19図 トレンチ柱状図



写真1



写真2



## 試掘調査

### No.9 仏ノ木遺跡

調査目的 分譲住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査

所在地 下新倉3丁目905番10

調査日 令和4年7月12日

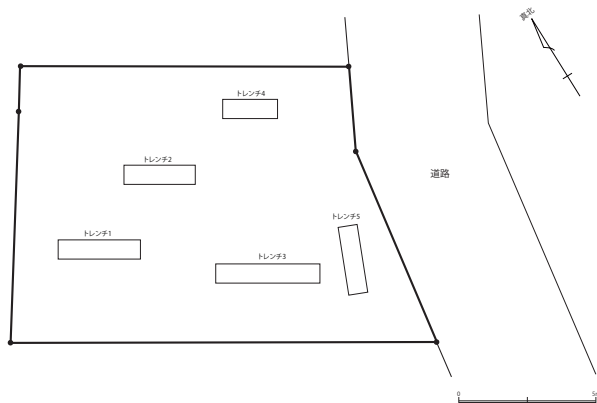
調査面積 132.47m<sup>2</sup>

調査概要 調査地は、仏ノ木遺跡(11-036)の北西に位置する。調査は、対象地内に幅約70cm長さ約2m～3m80cmのトレンチを5本設定した(第21図)。調査区全体を65cm～70cm程度まで掘り下げた(第22図)。

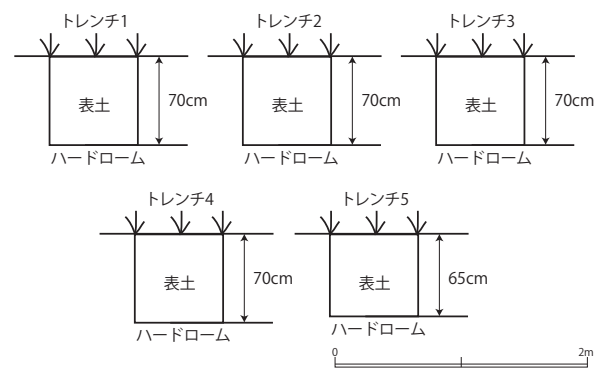
調査の結果、本地点では、遺構・遺物包含層及び遺物は認められなかった。



第20図 調査地点位置図 (S=1/2500)



第21図 トレンチ配置図



第22図 トレンチ柱状図



写真1



写真2

試掘調査

No. 10 越後山遺跡

調査目的 宅地造成・分譲住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査

調査地点 南1丁目2397番3、2399番24

調査日程 令和4年7月21日

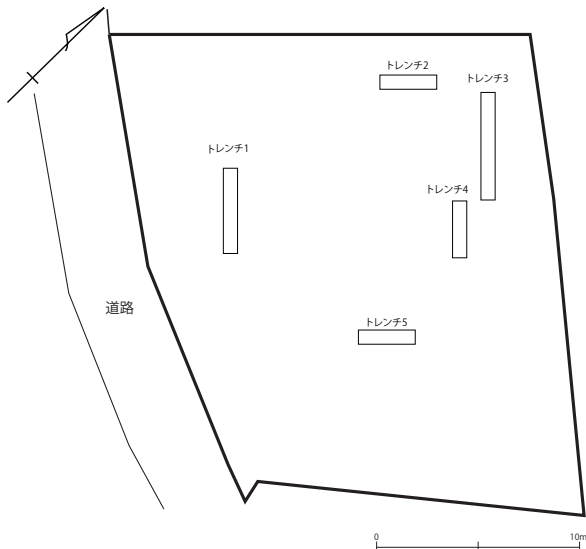
調査面積 473.02㎡

調査概要 調査地は、越後山遺跡(11-041)の南に位置する。調査は、対象地内に幅約70cm長さ約2m80cm～5m30cmのトレンチを5本設定した(第24図)。調査区全体を30cm～150cm程度まで掘り下げた(第25図)。

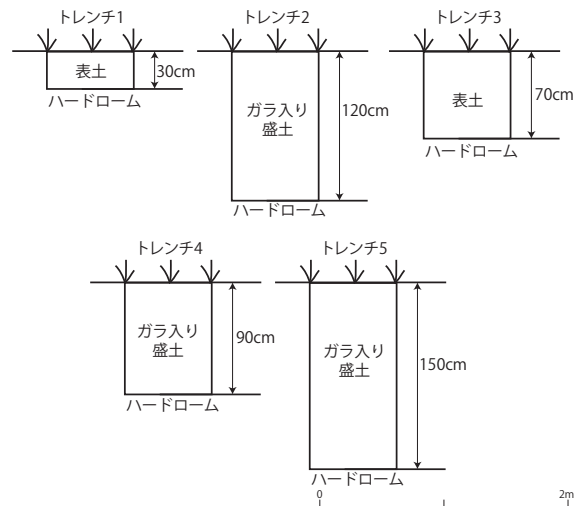
調査の結果、本地点では、遺構・遺物包含層及び遺物は認められなかった。



第23図 調査地点位置図 (S=1/2500)



第24図 トレンチ配置図



第25図 トレンチ柱状図



写真1



写真2

試掘調査

No. 13 柿ノ木坂遺跡

調査目的 個人住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査

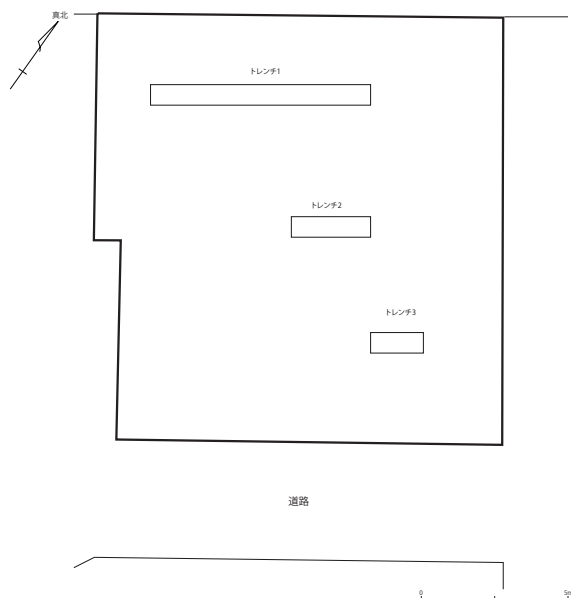
調査地点 新倉 1-3765-1

調査日程 令和4年8月23日

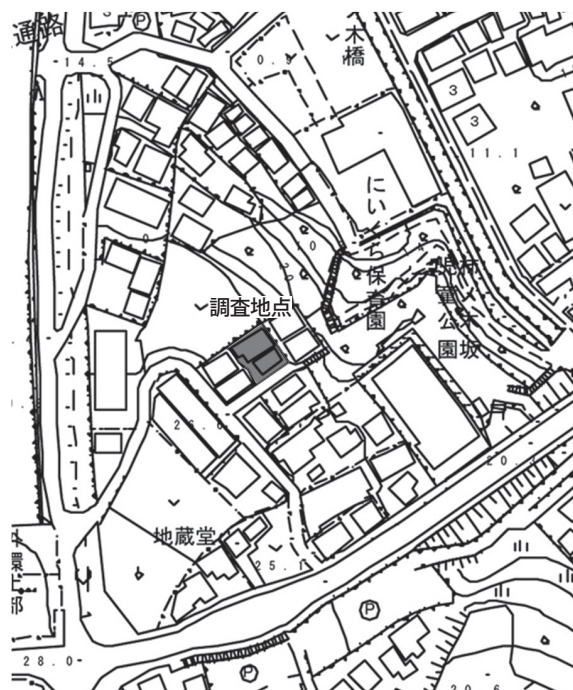
調査面積 196.44m<sup>2</sup>

調査概要 調査地は、柿ノ木坂遺跡(11-011)の東に位置する。調査は、対象地内に幅約70cm長さ約1m80cm～7m50cmのトレンチを3本設定した(第27図)。調査区全体を40cm～120cm程度まで掘り下げた(第28図)。

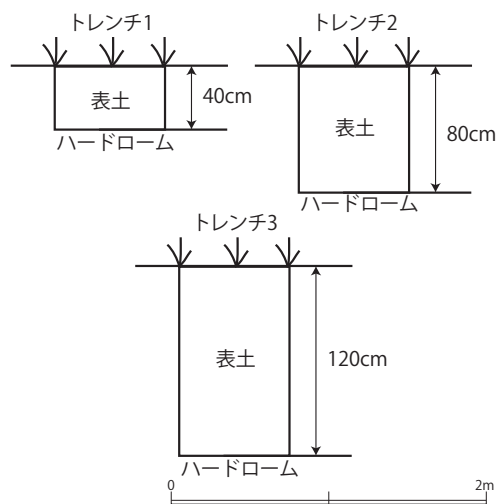
調査の結果、本地点では、遺構・遺物包含層及び遺物は認められなかった。



第27図 トレンチ配置図



第26図 調査地点位置図 (S=1/2500)



第28図 トレンチ柱状図



写真



写真

## 試掘調査

### No. 17 仏ノ木遺跡

調査目的 個人住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査

調査地点 下新倉 4-4-66

調査日程 令和4年10月26日

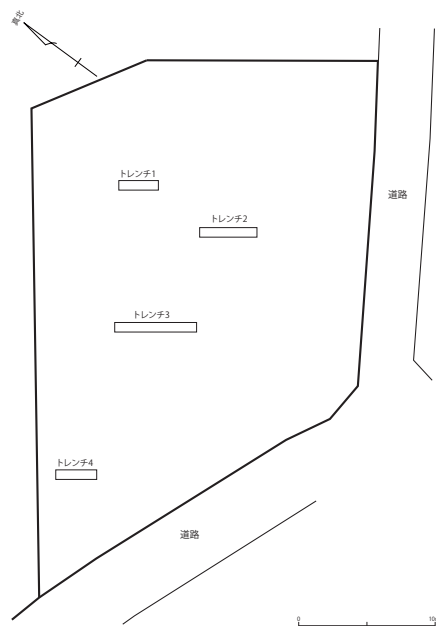
調査面積 730.38㎡

調査概要 調査地は、仏ノ木遺跡(11-036)の中央東寄りに位置する。調査は、対象地内に幅約70cm長さ約2m90cm～6mのトレンチを4本設定した(第30図)。調査区全体を40cm～90cm程度まで掘り下げた(第31図)。

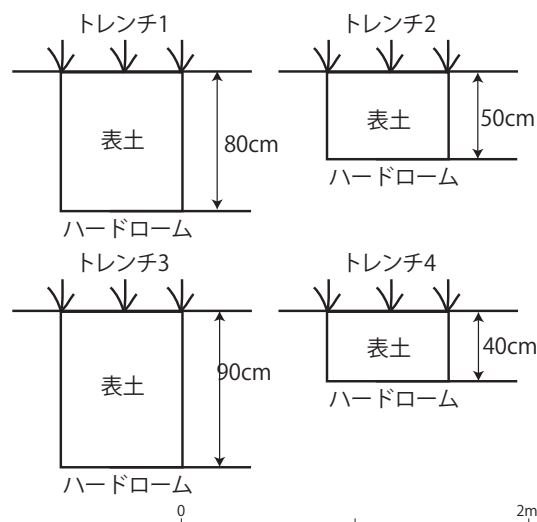
調査の結果、本地点では、遺構・遺物包含層及び遺物は認められなかった。



第29図 調査地点位置図 (S=1/2500)



第30図 トレンチ配置図



第31図 トレンチ柱状図



写真1



写真2

## 試掘調査

### No. 19 白子宿上遺跡

調査目的 個人住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査

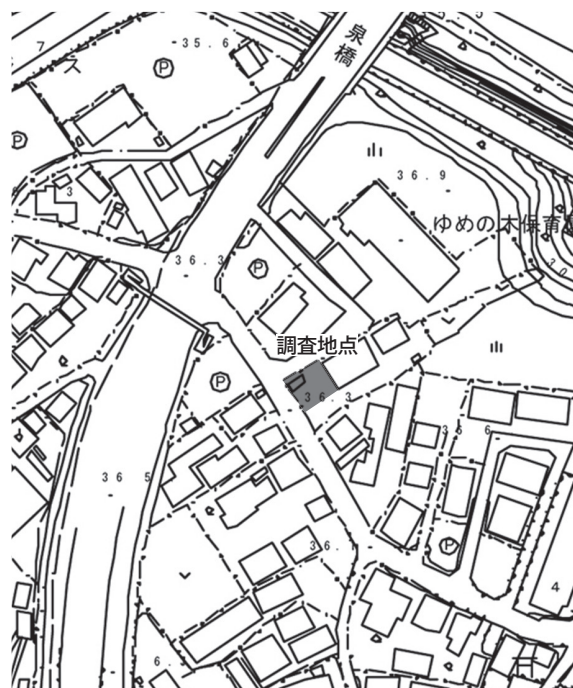
調査地点 白子2丁目1094番2、1098番2の各一部

調査日程 令和4年11月4日

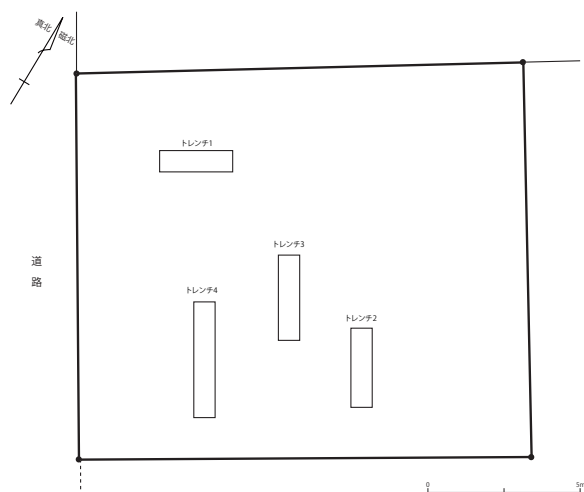
調査面積 188.92㎡

調査概要 調査地は、白子宿上遺跡(11-019)の北西寄りに位置する。調査は、対象地内に幅約70cm長さ約2m40cm～3m80cmのトレンチを4本設定した(第33図)。調査区全体を45cm～50cm程度まで掘り下げた(第34図)。

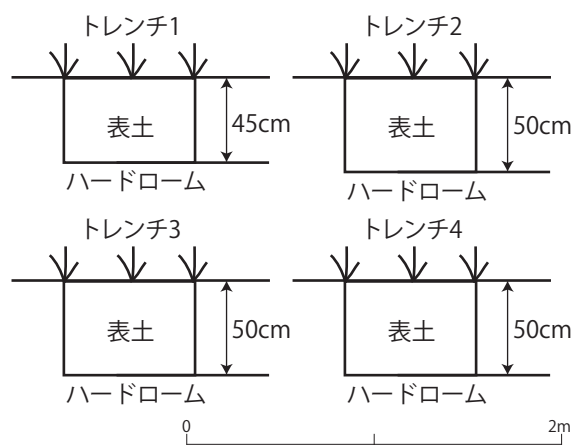
調査の結果、本地点では、遺構・遺物包含層及び遺物は認められなかった。



第32図 調査地点位置図 (S=1/2500)



第33図 トレンチ配置図



第34図 トレンチ柱状図



写真1



写真2

試掘調査

No. 20 峯遺跡

調査目的 集合住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査

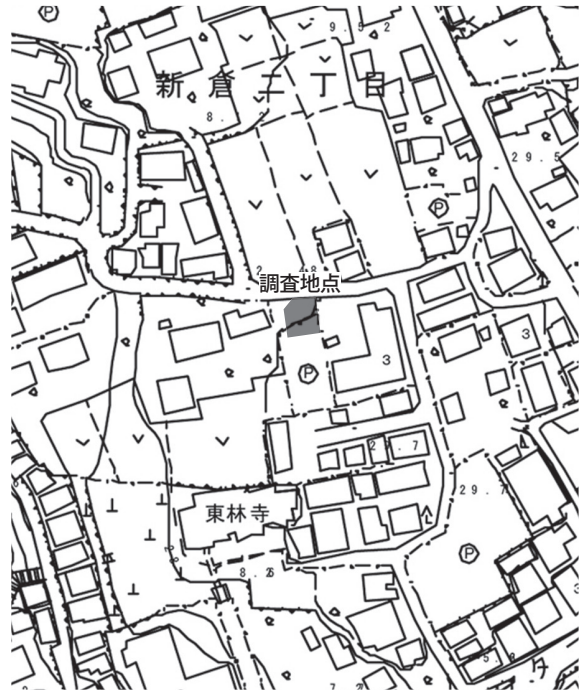
調査地点 新倉2丁目 3529-10、3529-12

調査日程 令和4年11月21日

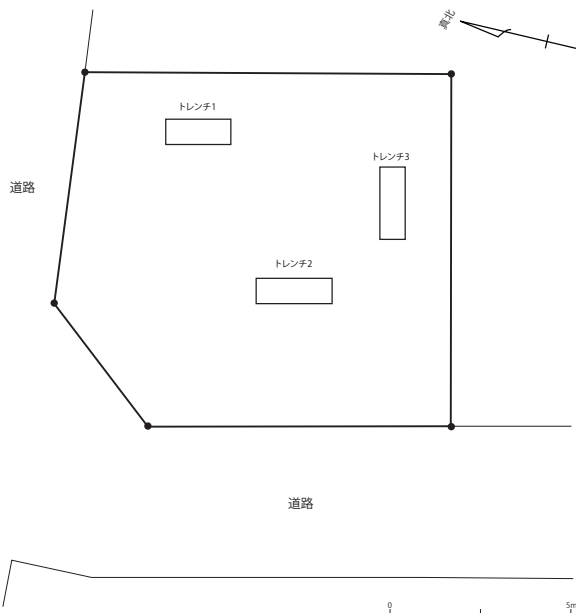
調査面積 98.03㎡

調査概要 調査地は、峯遺跡（11-035）の南に位置する。調査は、対象地内に幅約70cm長さ約1m80cm～2m10cmのトレンチを3本設定した（第36図）。調査区全体を60cm～65cm程度まで掘り下げた（第37図）。

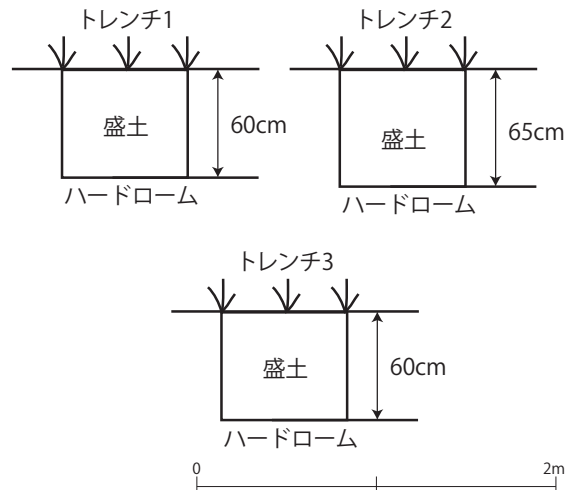
調査の結果、本地点では、遺構・遺物包含層及び遺物は認められなかった。



第35図 調査地点位置図 (S=1/2500)



第36図 トレンチ配置図



第37図 トレンチ柱状図



写真1



写真2

試掘調査

No. 21 吹上遺跡

調査目的 倉庫・事務所建設に伴う埋蔵文化財確認調査

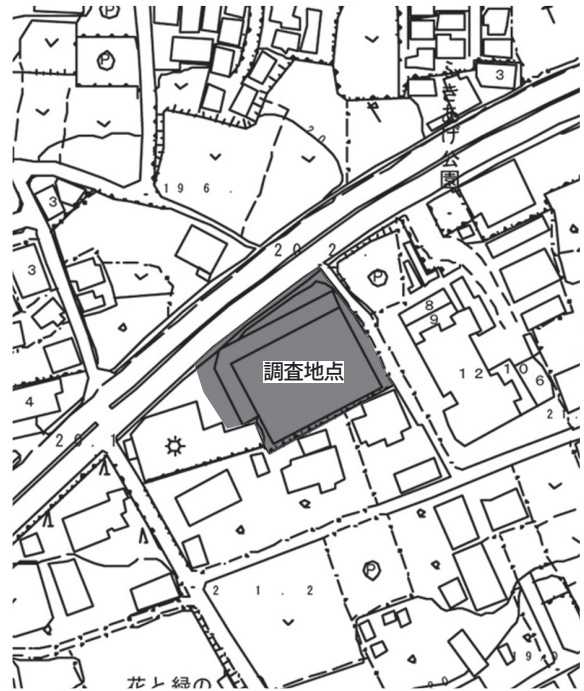
調査地点 白子3丁目 4432-1、4433-1、4434-2、4435-1

調査日程 令和4年11月24日

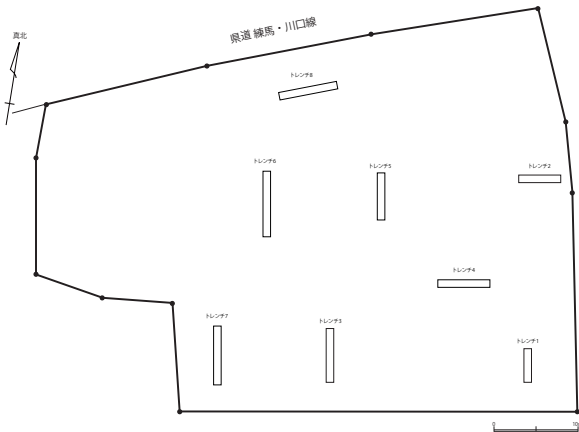
調査面積 2,476.73㎡

調査概要 調査地は、吹上遺跡(11-013)の北西端に位置する。調査は、対象地内に幅約90cm長さ約4m～7m80cmのトレンチを8本設定した(第39図)。調査区全体を20cm～120cm程度まで掘り下げた(第40図)。

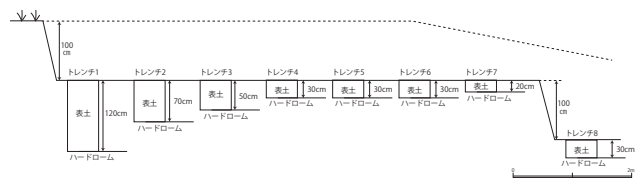
調査の結果、本地点では、遺構・遺物包含層及び遺物は認められなかった。



第38図 調査地点位置図 (S=1/2500)



第39図 トレンチ配置図



第40図 トレンチ柱状図



写真1



写真2

試掘調査

No. 22 向原遺跡

調査目的 分譲住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査

調査地点 新倉1丁目3847番8

調査日程 令和4年11月25日

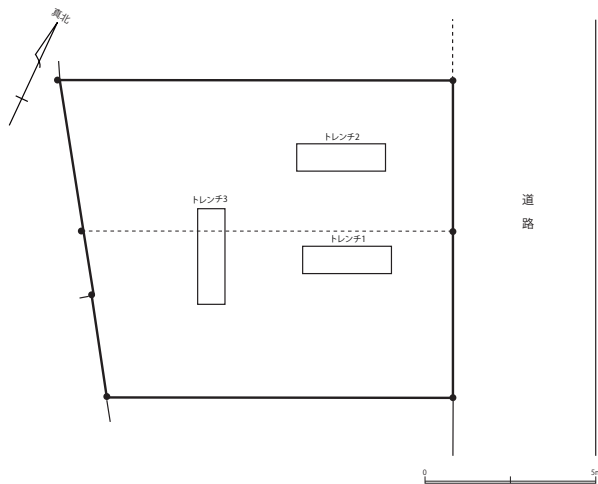
調査面積 99.89㎡

調査概要 調査地は、向原遺跡(11-007)の西端に位置する。調査は、対象地内に幅約80cm長さ約2m60cm～2m80cmのトレンチを3本設定した(第42図)。調査区全体を100cm～120cm程度まで掘り下げた(第43図)。

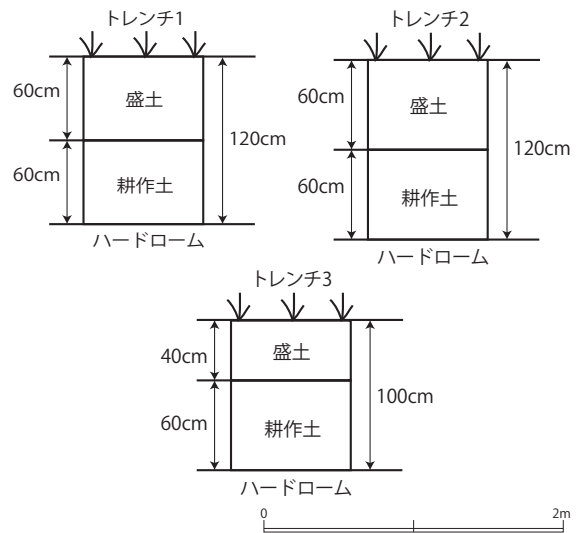
調査の結果、本地点では、遺構・遺物包含層及び遺物は認められなかった。



第41図 調査地点位置図 (S=1/2500)



第42図 トレンチ配置図



第43図 トレンチ柱状図



写真1



写真2



## 試掘調査

### No. 24 吹上遺跡

調査目的 駐車場建設に伴う埋蔵文化財確認調査

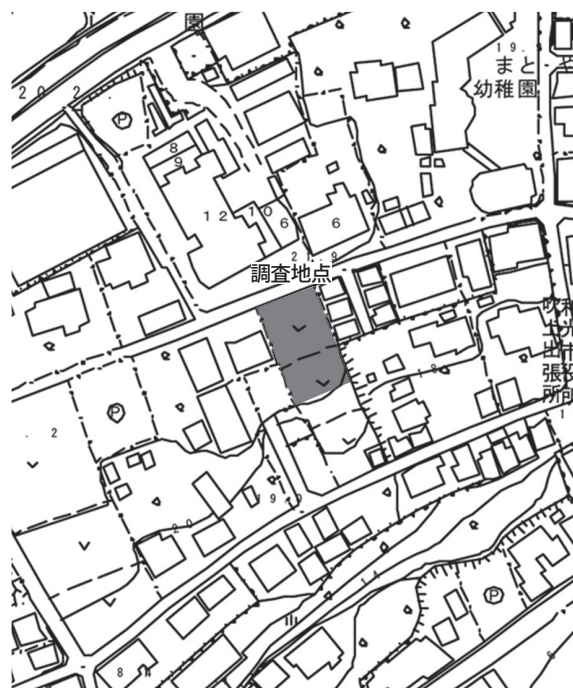
調査地点 白子3丁目 4385-1

調査日程 令和4年12月20日

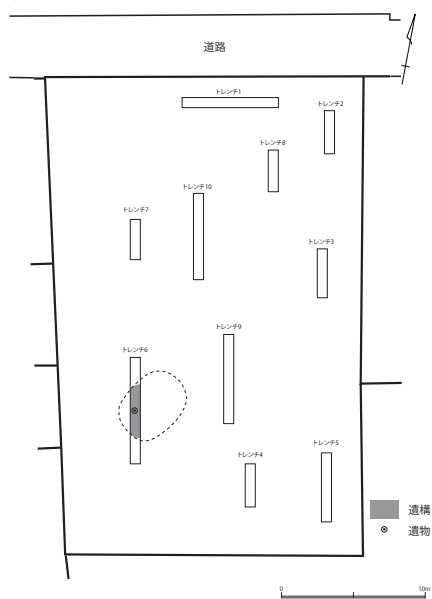
調査面積 704.00m<sup>2</sup>

調査概要 調査地は、吹上遺跡(11-013)の中央に位置する。調査は、対象地内に幅約70cm長さ約2m80cm～7m40cmのトレンチを10本設定した(第45図)。調査区全体を60cm～140cm程度まで掘り下げた(第46図)。

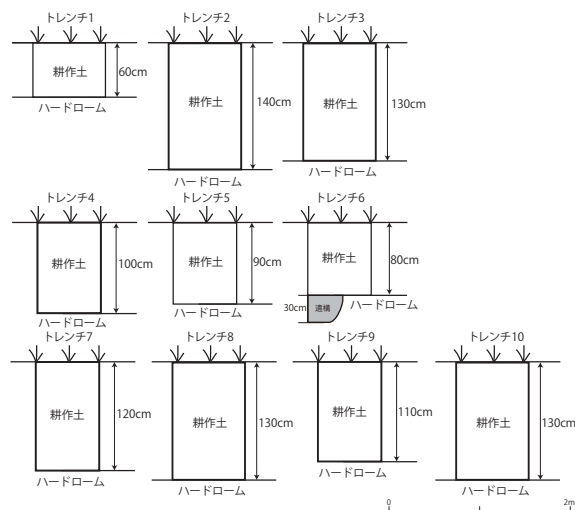
調査の結果、本地点で、遺構・遺物包含層が確認され、盛土保存の措置を取ることとなった。



第44図 調査地点位置図 (S=1/2500)



第45図 トレンチ配置図



第46図 トレンチ柱状図



写真1



写真2

## 試掘調査

### No. 25 花ノ木遺跡

調査目的 分譲住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査

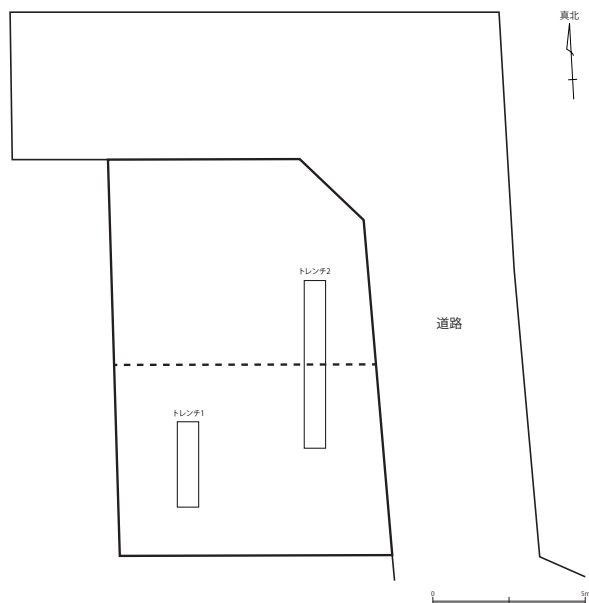
調査地点 新倉2丁目3459番6の一部

調査日程 令和4年12月23日

調査面積 109.18㎡

調査概要 調査地は、花ノ木遺跡(11-002)の南西に位置する。調査は、対象地内に幅約70cm長さ約2m80cmと5m50cmのトレンチを2本設定した(第48図)。調査区全体を150cm～190cm程度まで掘り下げた(第49図)。

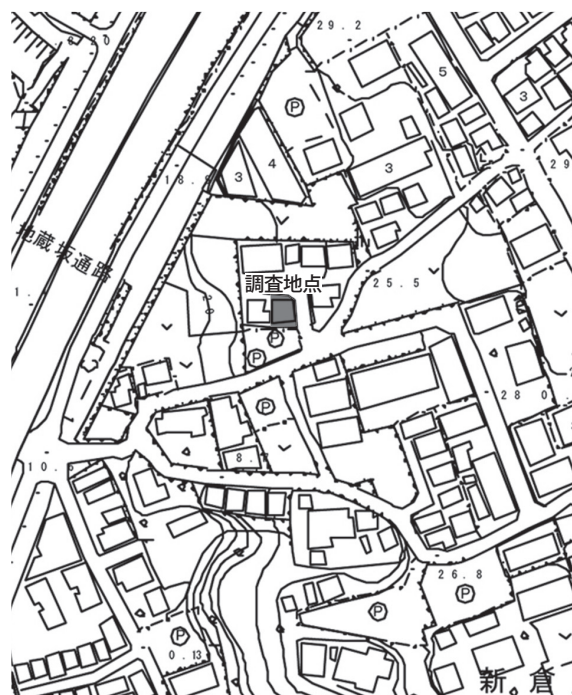
調査の結果、本地点では、遺構・遺物包含層及び遺物は認められなかった。



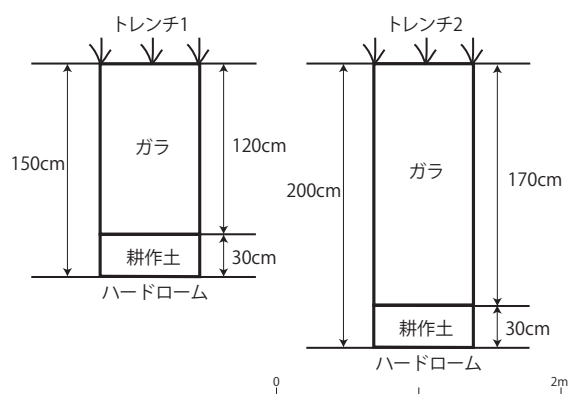
第48図 トレンチ配置図



写真1



第47図 調査地点位置図 (S=1/2500)



第49図 トレンチ柱状図



写真2

## 試掘調査

### No.28 花ノ木遺跡

調査目的 個人住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査

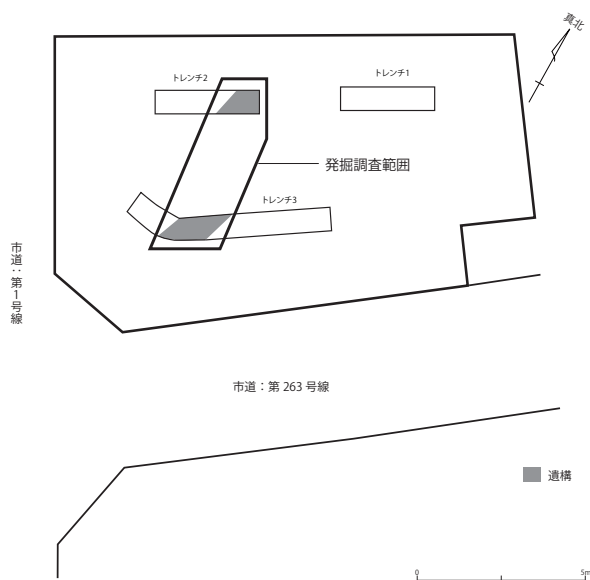
調査地点 新倉2丁目21-50

調査日程 令和5年2月17日

調査面積 108.36㎡

調査概要 調査地は、花ノ木遺跡(11-002)の南寄りに位置する。調査は、対象地内に幅約70cm長さ約2m80cm～6mのトレンチを3本設定した(第51図)。調査区全体を60cm～120cm程度まで掘り下げた(第52図)。

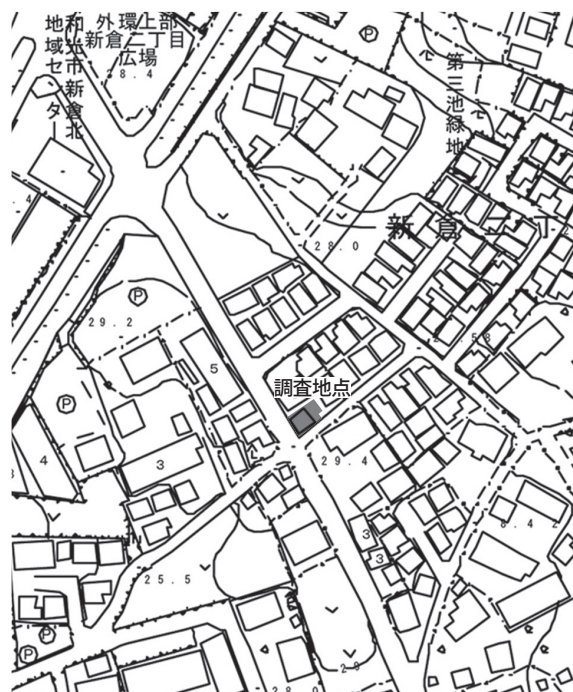
調査の結果、本地点で、遺構・遺物包含層及び遺物が確認され、発掘調査を行うこととなった。



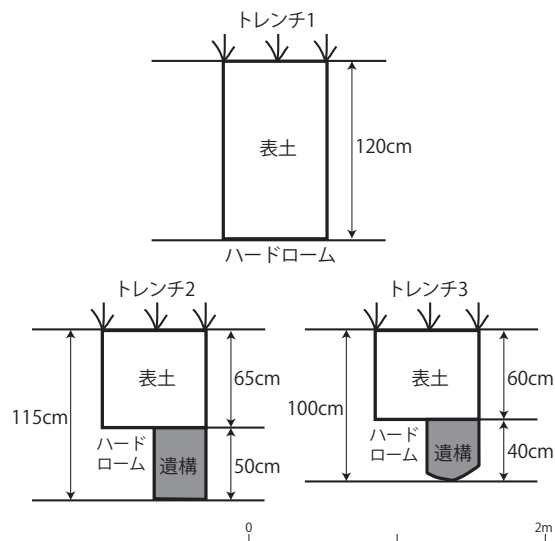
第51図 トレンチ配置図



写真1



第50図 調査地点位置図 (S=1/2500)



第52図 トレンチ柱状図



写真2

試掘調査

No. 29 越之上遺跡

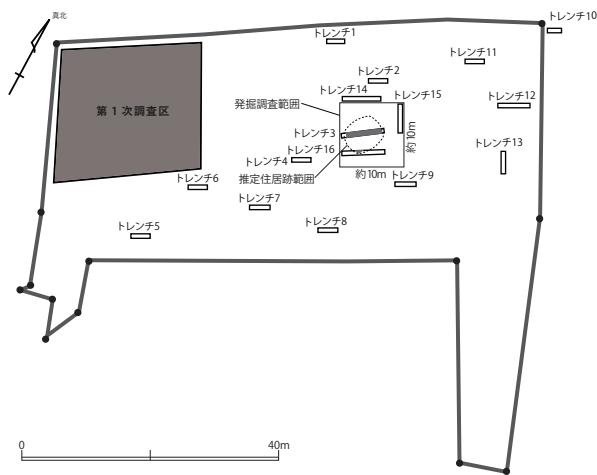
調査目的 集合住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査

調査地点 白子2丁目11他

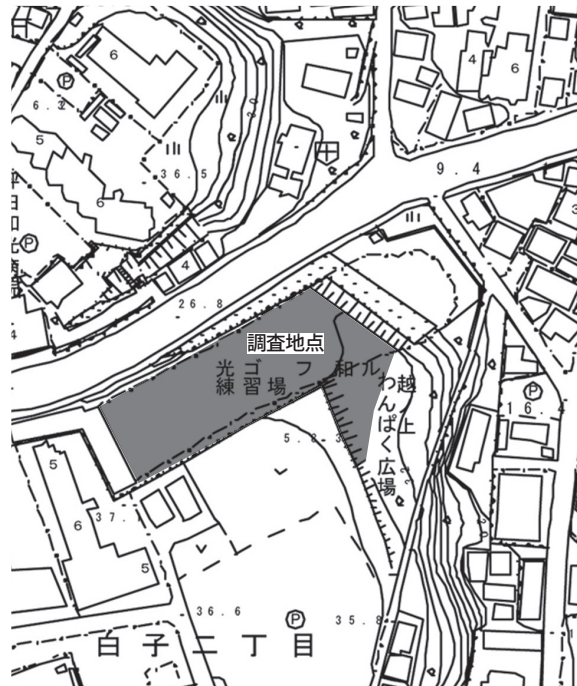
調査日程 令和5年3月14日・15日

調査面積 11,582.00㎡

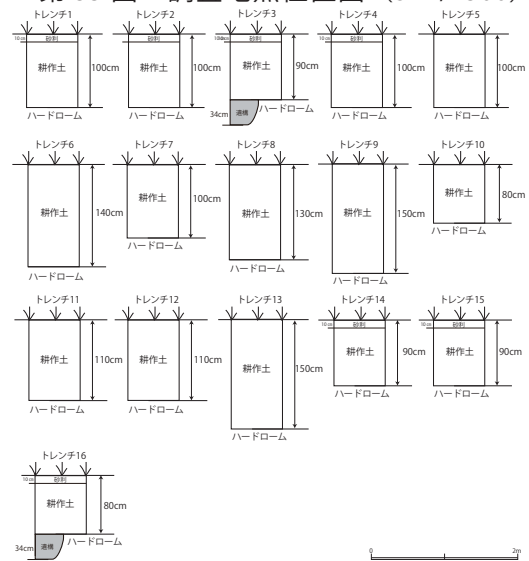
調査概要 調査地は、越之上遺跡(11-039)の北端に位置する。調査は、対象地内に幅約70cm長さ約2m20cm～6m70cmのトレンチを16本設定した(第54図)。調査区全体を80cm～150cm程度まで掘り下げた(第55図)。調査の結果、本地点で、遺構・遺物包含層及び遺物が確認され、発掘調査を行うこととなった。



第54図 トレンチ配置図



第53図 調査地点位置図 (S=1/2500)



第55図 トレンチ柱状図



写真1



写真2

工事立会

No. 3 越之上遺跡

調査目的 公園施設の撤去工事  
 調査地点 白子2丁目11番地内  
 調査日程 令和4年5月18日  
 調査面積 631.30 m<sup>2</sup>  
 調査概要 工事立会

工事立会

No. 11 向原遺跡

調査目的 ガス管理設工事  
 調査地点 新倉1-29、1-31  
 調査日程 令和4年7月29日  
 調査面積 30.20m<sup>2</sup>  
 調査概要 工事立会

工事立会

No. 14 市場峡・市場上遺跡

調査目的 ガス管理設工事  
 調査地点 白子3-6、3-28  
 調査日程 令和4年9月14日  
 調査面積 45.96m<sup>2</sup>  
 調査概要 工事立会

工事立会

No. 16 越之上遺跡

調査目的 その他の開発（ボーリング）  
 調査地点 白子2丁目1356-1他  
 調査日程 令和4年10月17日  
 調査面積 12,197.00m<sup>2</sup>  
 調査概要 工事立会

工事立会

No. 23 向原遺跡

調査目的 ガス管理設工事  
 調査地点 新倉1-29  
 調査日程 令和4年12月6日  
 調査面積 11.70m<sup>2</sup>  
 調査概要 工事立会

工事立会

No. 7 白子宿上遺跡

調査目的 ガス管理設工事  
 調査地点 白子2丁目12  
 調査日程 令和4年6月23日・24日  
 調査面積 17.82m<sup>2</sup>  
 調査概要 工事立会

工事立会

No. 12 下里遺跡

調査目的 ガス管理設工事  
 調査地点 下新倉4丁目2214-2-3.2215-9.2255-3.2257-2.2258-2-3-4  
 調査日程 令和4年8月1日  
 調査面積 30.00m<sup>2</sup>  
 調査概要 工事立会

工事立会

No. 15 吹上遺跡

調査目的 電柱移設工事  
 調査地点 白子3丁目4434-1  
 調査日程 令和4年9月15日・11月22日  
 調査面積 2.00m<sup>2</sup>  
 調査概要 工事立会

工事立会

No. 18 吹上遺跡

調査目的 支線張替工事  
 調査地点 白子3丁目4397-3地先  
 調査日程 令和4年10月28日  
 調査面積 2.00m<sup>2</sup>  
 調査概要 工事立会

工事立会

No. 26 仏ノ木遺跡

調査目的 電柱移設工事  
 調査地点 下新倉4丁目833-3.834-1  
 調査日程 令和5年2月3日  
 調査面積 2.00m<sup>2</sup>  
 調査概要 工事立会

## 工事立会

### No. 27 牛房遺跡

調査目的 電柱建替工事  
調査地点 南1丁目 2275-10.2275-33  
調査日程 令和5年2月13日  
調査面積 4.00㎡  
調査概要 工事立会

えぐち やよい（和光市教育委員会）

## 執筆者紹介

鈴木 一郎 (和光市教育委員会)  
野澤 均 (和光市教育委員会)  
大内 一雄 (和光市教育委員会)  
田中 由美 (和光市教育委員会)  
江口 やよい (和光市教育委員会)

ISSN 2189-3276

---

和光市デジタルミュージアム紀要 第9号

発行日 令和6(2024)年3月31日発行

編集・発行 和光市教育委員会(担当:生涯学習課)

〒351-0192 埼玉県和光市広沢1-5

TEL 048-464-1111(代表)

和光市デジタルミュージアムれきたまURL

<https://rekitama-wako.jp>

---



れきたま  
QRコード